

設 問 項 目	大学名/調査館	1. 貴館が考える「ラーニング・コモンズ(LC)」の目標やポリシー、考え方等	2. 貴館が整備するLCの設置目的又はミッション等	3. 貴館が整備するLCの名称(愛称、仮称等)	4. 貴館が整備したLCの開設年月	8. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：名称	9. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：どのような学習が行われることを想定してデザインしたか	10. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： * 設置場所： * 図書館内外の別： * 入館ゲート内外の別：	11. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：面積	12. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：想定した学習を実現するために施設(建築・設備)の面で工夫点、設計上の特徴
1	北海道大学本館	利用者(特に学生)へ柔軟かつ自由度の高い学習空間を提供し、学習支援と活発なコミュニケーションを図る。		なし	2011年11月	オープンエリア	テーブル・椅子を自由に配置し、ホワイトボードやパソコンを利用して、小規模グループでディスカッションしながら学習できることを想定	*設置場所： 閲覧室内 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	1,117㎡	*移動可能なテーブルを用意して、人数によって自由にテーブルを組み合わせることが出来るよう工夫した。
						リテラシールーム	情報リテラシー講習会等学内の講習会を開催することを想定。	*設置場所： 閲覧室(オープンエリア)内 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	73㎡	*学生用端末26台を設置。PCを使った講習会向けにデザインされている。 *扉を閉じたクローズな講習会が可能。講習会を実施しない時間帯には、学生にPCを開放している。
						メディアコート	学習の合間に飲食ができ、くつろげる広い空間としてデザインされている。	*設置場所： 既存図書庫庫地 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	1,540㎡	*くつろぎ空間としてベンチを設置している。 *すべての壁にピクチャーレールを設置し展示可能としている。
2	東北大学本館	大学図書館内におけるLCは、学生の主体的な学習を支援するための①「施設・設備」のみならず、②「人的サポート」、③「コンテンツ」、④「大学教育(学生・教員・組織等)との連携」の4輪が動いて初めて機能し始め、そして発展するものと考えられる。	予算要求段階でのLCの整備目的： 図書館の蔵書や電子的な学術情報資源・ツールを活用し、グループで議論しながら主体的に学習できる場と、学術情報資源の利用や論文作成の指導、IT技術に関する人的サポートを提供する。	なし	2012年11月	短時間PCワークエリア	インターネット、情報検索	*設置場所： 1Fメインフロア *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	約150㎡	*約1,000㎡のワンフロアを活かし、特にエリア毎の仕切りを設けていない。 *エリアの区別は、座席(椅子)の色で分けている。(短時間PCワークエリア：緑、長時間PCワークエリア：赤、グループボックスエリア：黄緑、フレキシブルワークエリア：橙)
						長時間PCワークエリア	レポート作成、DVD視聴、複数でのPC利用	*設置場所： 1Fメインフロア *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	約250㎡	*六角形のキャレルPCデスクを採用、複数人で使えるように広めのデスクとなっている。
						グループボックスエリア	ディスカッション、ディベート、グループ学習	*設置場所： 1Fメインフロア *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	約100㎡	*ファミレスタイプの座席で、3方をパーティションで囲ったボックス席を採用。 *各ボックスは4名~6名で使用できる。
						フレキシブルワークエリア	グループ学習、イベント(授業、研修、講演会、自主ゼミ)	*設置場所： 1Fメインフロア *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	約200㎡	*アクティブラーニング用に椅子もテーブルも自由な移動が可能のように、軽いキャスター付を採用。 *イベントなどで音量が大きくなっても大丈夫のように、メインフロアの一番奥に配置。 *「見る」、「見られる」という開放性を重視。
3	筑波大学中央図書館本館	*学生の自発的な学習活動を効果的にサポートする機能(コンテンツ、コンピュータ設備、人的サポート)を有した学習環境の提供。 *ラーニング・コモンズの効果的な運用による学習図書館の機能の拡充。	1の目標を実現するため、以下のような学習スペースを提供 *学生たちが気軽に集い、学び、教え合う学びの空間 *多様な学習スタイルに応じて姿を変える万華鏡空間 *学生同士の交流や諸活動の「見える化」により知的好奇心を刺激して、学びの相乗効果を生み出す空間的機能の拡充。	中央図書館ラーニング・スクエア	2011年9月	スタディサポートエリア	図書館スタッフ(メインカウンター、レファレンスデスク)、図書館ボランティア(ボランティアカウンター)、ラーニング・アドバイザー(学生サポートデスク)がそれぞれの特長を活かした人的なサポートを提供するゾーンとしてデザインした。	*設置場所： 中央図書館本館2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内		*既存の構造・配置を生かしたレイアウトとした。
						クリエイティブエリア	全学計算機や個人学習スペースを中心とした、学習による創造を促進する空間としてデザインした。	*設置場所： 中央図書館本館2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内		*既存の構造・配置を生かしたレイアウトとした。
						コラボエリア	グループで自由にディスカッションや共同学習を行える設備を備えた空間としてデザインした。	*設置場所： 中央図書館本館2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内		*既存の構造・配置を生かしたレイアウトとした。
						プレゼンテーションエリア	学習・研究成果や展示を多くの人の目に触れさせ、異分野の交流や「気づき」を促進するための空間としてデザインした。	*設置場所： 中央図書館本館2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内		*既存の構造・配置を生かしたレイアウトとした。
4	千葉大学アカデミックリンク	知識基盤社会を生き、生涯学習続けるための基礎的な力を備えた「考える学生」の創造をめざす「アカデミック・リンク」のコンセプトを実現する場。	学習とコンテンツの近接によるアクティブ・ラーニングの推進	アクティブ・ラーニング・スペース	2012年3月	プレゼンテーション・スペース	セミナー、公開授業など	*設置場所： 1階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 外	80㎡	*外部と一体化できる開放的な集合スペース
						コミュニケーション・エリア	グループで話をしながら進めるアクティブ・ラーニング	*設置場所： 2階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	926㎡	*仕切りのない開放的な空間で、自由に机やホワイトボードを使ってグループ学習を行う。
						グループワーク・エリア	パソコンを使って1人またはグループで進めるアクティブ・ラーニング	*設置場所： 3階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	969㎡	*PCを使っのアクティブ・ラーニングを可能にする
						グループ学習室・研究個室エリア	グループによる討議やプレゼンテーションなどを行うアクティブ・ラーニング	*設置場所： 4階 *図書館内外の別： 内 *入館ゲート内外の別： 内	945㎡	*ガラスで囲った空間にして透明性を確保した。

設 問 項 目	大学名／調査館	1. 貴館が考える「ラーニング・commons(LC)」の目標やポリシー、考え方等	2. 貴館が整備するLCの設置目的又はミッション等	3. 貴館が整備するLCの名称(愛称、仮称等)	4. 貴館が整備したLCの開設年月	8. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：名称	9. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：どのような学習が行われることを想定してデザインしたか	10. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： * 設置場所： * 図書館内外の別： * 入館ゲート内外の別：	11. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：面積	12. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：想定した学習を実現するために施設(建築・設備)の面で工夫点、設計上の特徴
5	新潟大学 中央図書館	学生の自主自立的な学習活動を支援するための「学びの場」「創造の場」「発想の場」としての役割を果たすこと	学生の共同的・自主的な学習のための快適かつ機能的な環境を提供し、ネットワークを活用した情報の収集・加工・発信のための設備や人的支援を提供する。	ラーニング・commons	2013年4月	ワーキングエリア	図書館資料やパソコンを使用し討論を行いながらのグループ学習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	1,791㎡	*LC全体として 可視性・可動性のすぐれた明るく開放的なオープンスペース として整備した。 *可動機やホワイトボードを組み合わせた学習空間 *無線LAN環境 *学習形態にあわせてグループ学習室やプレゼンエリアなど多彩な学習空間
						プレゼンエリア	プレゼンテーションの発表や練習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	50㎡	*パワーポイント等の映像を投影するために白い壁面をスクリーンとして利用している。 *「見る」「見られる」緊張感を持ってプレゼンの発表等が行えるようにオープンスペースに配置した。
						外国語学習支援スペース (FL(エルエル)-SALC(サルク))	外国語の図書や視聴覚資料の利用、外国語の会話練習や発音練習、留学生とのチャット等、様々な形の外国語学習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	400㎡ (プレゼンエリア・少人数ブースを含む)	* 会話練習や発音練習のためのスピーキングブースを設置した。
						少人数ブース	4～5人程度でのグループ学習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	20㎡	*グループで気軽に利用できるようにファミレスのようなボックス型の座席を設置した。
						ICT講義室	情報リテラシー教育等の授業や図書館ガイダンスでの利用。授業やガイダンスによる利用のない時間はパソコンを使った個人学習での利用	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	122㎡	*60台の教育用パソコンを教室形式に配置した。
						メディアラボ	大型プリンタでの研究発表用のポスターの印刷、画像編集用PCやスキャナを使用した教材作成等	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	50㎡	*ポスター印刷用の大型プリンタ、画像編集用ソフトが使用できるパソコンやスキャナの設置。
						グループ学習室	3～20名程度のグループ学習	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	72㎡	*6～8名用の個室を5室設置。 * 大部屋としても利用できるように一部の壁を可動式にした。
6	お茶の水女子大学	*本学のリーダーシップ教育のキーワード“Migakazuba”は、Respect for others (心遣い) / Intelligence (知性) / Confidence (しなやかさ) の3つの要素から構成される。 *これらリーダーに必要な力は、1人で学ぶことだけではなく、他者と共にあることで育まれるという教育理念の下、「 共に学び共に成長する場 」として、ラーニング・commonsは設置・運営されている。	学内各部署と連携して、当時直面していた大学全体の教育改革に資するため、図書館内に新しい教育にふさわしい場を学生に提供することを目的としていた。また、学内の他部署に図書館の改革を象徴する施設という意識を植え付けた。	なし	*2007年4月(LC)、 *2007年11月(ラウンジリニューアル)、 *2007年12月(キャリアカフェ)、 *2008年2月(キャリアカフェ、ラウンジの内装工事完了)	ラーニング・commons	設置されたパソコンにより、インターネットを利用しながら、各種データベース、電子ジャーナルを利用でき、レポート、論文をはじめ、各種調べ物がすぐに行える場所。また、2,3人で話しながらの学習も可能。図書館による、情報検索講習会を始めとした、授業も行える場。無線LAN配備。ノートパソコンを持ち込んでの利用もできる。	*設置場所：1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：外	211㎡	
						キャリアカフェ	グループで話し合いながらの学習が可能に、自由に組み合わせができる机を配置。プレゼンなどもできるよう、プロジェクター、スクリーンも用意。ドリンク自販機を設置し、ドリンクを飲みながら、長時間のグループ学習にも利用できるようにした。もともと、現代GP(現代的教育ニーズ取組支援プログラム)の取組の一つであるキャリアカフェを図書館内においてから始まり、学生に職業意識を身につけてもらうことを目的としている。現在は、学生・キャリア支援センターの相談員が週4日、13:00～17:00に就職相談受付を行っている。無線LANを配備。ノートパソコンを持ち込んでの利用もできる。	*設置場所：1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：外	161㎡	*既存の建物の改修により実現した。学内の別の建物の改修により、館内にあったジェンダー研究センターが移転したことにより、利用できる空間が増えたための改修だった。 * 壁をできるかぎり取りはずし、一目で見渡せる設計とした。 狭いスペースをできるだけ有効に活用するためには、部屋を仕切るよりも広く使えるという利点があったうえ、セキュリティ上もその方が都合良かった。 *スペース有効活用のため、 柱周りに立って使えるPC台を設置している。
						ラウンジ	4人掛けの机とリラックスできる椅子を配置。また、キャリアカフェと同レベルも用意し、グループ学習にも利用可能。キャリアカフェと同様に、ドリンクを飲むことができる。無線LANを配備。ノートパソコンを持ち込んでの利用もできる。月に一度、ピアノコンサートが行われている。	*設置場所：1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：外	144㎡	
7	静岡大学 静岡本館	*当館ではLearning Parkというコンセプトを表明している。 *「Learning」は、学習、研究する場としての図書館。「Park」は人が行き交う都市の中の公園をイメージしている。 *人と人が出会い、 美しい、学ぶことのできる空間、長時間滞在できる快適な空間で、 学生等の利用者の学習・研究をサポートすることを目標としている。		なし	2010年4月	ハーベストルーム (Learning Parkの構成要素としては、セミナールーム、個人ブース、PCワークエリア、ギャラリがあるが、ここではLCに直接該当するハーベストルームに限り記述する。)	グループワーク、グループ討議、プレゼンテーションの練習など	*設置場所：5階閲覧室 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	244㎡	*自由に配置できるキャスター付きの机、椅子。 *衛立としてもプロジェクター用スクリーンとしても利用可能なホワイトボード。 *学生の行動実態を踏まえたファミレス風ブース。
8	名古屋大学 中央図書館	*ラーニング・commonsは、次のような学習環境を学生のみなさんに提供することを目指しています。 *図書館の学術情報基盤をもとにして、 協同学習、ITを活用した学習が行える 総合的な学習環境 *情報リテラシー能力の育成及び学習を効果的に行えるサポートサービス *学習及び学生生活に関する各種情報の提供]	概要要求時には以下の目的を掲げていましたが、現在は特に明示していません。 1) 学生の学習に必要な情報資源や情報技術関連設備とそれらの活用能力を育成するためのサポートを学生のスキルの程度や情報ニーズに応じて総合的に提供する。 2) 図書館職員によるレファレンスサービス、教員による情報リテラシー教育、TA等による情報技術活用支援、学生のピア・チューターによる学習相談等のサービスを一箇所ですべて受けられるワンストップ・サービスとする。 3) これを実現するために、大学図書館が教職教育院、学部・研究科、情報基盤センターや情報メディア教育センター等学内の教育・情報施設との連携・協力を強化し、大学の教育課程に深く関与する新たな役割を創出する。 4) グループ・プレゼンテーション、授業、自学自習等さまざまな学習形態に対応したスペースと必要な設備、ツール、情報資源を総合的に提供する。 5) 授業資料ナビ(パスファインダー)、オープンコースウェア「名大の授業」、学術情報リポジトリなどのデジタル・コンテンツと印刷体の図書館資料をシームレスに活用できる能力を効果的に育成する情報リテラシー教育の実践の場を提供する。 6) 科学技術・学術審議会報告「学術情報基盤の今後の在り方について」(2006年3月)で示された今後の大学図書館における教育支援機能強化及び基盤設備整備のあり方のモデルを提示することにより、他機関での同様の取り組みを支援する。	中央図書館 ラーニング・commons	2009年12月	グループラーニングエリア	少人数(2人～8人程度)での共同作業、ディスカッションなどによる協同学習。また、プレゼンテーション演習。	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約400㎡	* 入館ゲートを入ったすぐに広がるオープンなスペース、可動式机
						多目的ラーニングエリア	PCを利用した個人、または少人数学習(2～3人)	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約300㎡	*デスクトップの広い机を設置。 *持ち込みPC用コンセントの整備
						ライティングサポートエリア	グラフィックソフトを利用した、PCを使った論文やレポートの作成。	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約140㎡	*2人で作業できるブースを設置。 * ライティング指導用の専用ブースを2つ設置。
						ディスカバリースペース	協動的グループ学習、ワークショップ、セミナーの開催、学術的な交流の場	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約60㎡	*プロジェクター、スクリーンを設置。 *タレット付の椅子。 *ポスター掲示なども可能。
						セミナールーム	講習会や研究発表、ゼミ、勉強会、プレゼンテーションの練習など。PCのみの利用。	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	A 100㎡ B 32㎡	*全席にPCを設置。 *25台と13台の2室あり。
						AVエリア	視聴覚資料を利用した学習。語学学習。	*設置場所：内 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約120㎡	*2人用ブースを設置

設 問 項 目	大学名／調査館	1. 貴館が考える「ラーニング・commons(LC)」の目標やポリシー、考え方等	2. 貴館が整備するLCの設置目的又はミッション等	3. 貴館が整備するLCの名称(愛称、仮称等)	4. 貴館が整備したLCの開設年月	8. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：名称	9. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：どのような学習が行われることを想定してデザインしたか	10. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： * 設置場所： * 図書館内外の別： * 入館ゲート内外の別：	11. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：面積	12. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：想定した学習を実現するために施設(建築・設備)の面で工夫点、設計上の特徴
9	金沢大学 中央図書館	学生が効率的に自学自習・グループ学習を行えるような支援を行い、「自ら学ぶ力」の向上に貢献する。	学生が効率的に自学自習・グループ学習を行えるような支援を行い、「自ら学ぶ力」の向上に貢献する。	KULIC-α	2010年4月	ブックラウンジ	飲食(軽食)しながら学習できるエリア 気軽に(図書館に)立ち寄る 長時間滞在の合間にリラックス 人が集まる、刺激を受ける	*設置場所：通常の出入口 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：外	278.660㎡	*スペースの中心にかふえスペースを設置した。
						インフォスクエア	本を含めた様々な情報とふれあう場 ICTに対応したPC環境/情報ポータル場所	*設置場所：2階カウンター前 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内		*PCを設置し、プリバインドプリンタへの出力を可能にした。
						コラボスタジオ	本を利用した協調的な学びを展開する場 図書館蔵書とPCを活用したグループ学習やプレゼンテーション演習	*設置場所：3階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	200.325㎡	*少人数(予約制)のグループスタジオを2室、自由に利用できるオープンスタジオを1室設置した。
10	大阪大学 総合図書館	ラーニング・commons： 図書館所蔵の紙資料と電子資料の双方を自由に利用できる空間で、学生や教員が互いにコミュニケーションを取り合い、共に考え、ディスカッションする主体的な「学びの場」「創造の場」「発想の場」。	LC：TeachingからLearningへ、ReadingからLearningへと大きく変化する教育・学習方法に対応し、自主的、自立的な課題解決型学習を支援することを目的として設置。	総合図書館 ラーニング・commons	2009年6月	総合図書館ラーニング・commons	グループによるディスカッション、プレゼンテーション、授業、講習会等 様々な学習スタイルを想定してデザイン。	*設置場所：B棟2階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	756㎡	O コラボレーションゾーン、端末ゾーン、フリーゾーン、ラウンジゾーンの4つに区画し、学生や教員がそれぞれのスタイルに合わせて自由に利用できるような設計。 貸出用PCや利用者持ち込みPCが利用できる情報コンセントや無線LAN環境も整備。卓上型や間仕切り代わりにしても利用できる両面型等、各種ホワイトボードを配置。座席106席、ソファ24席。 * コラボレーションゾーン：10名前後のグループによる利用を想定し、透明のパーテーションで3区分。各2台の据置PCを配置。 * 端末ゾーン：両端のテーブル4台には、数名によるPCを活用した学習を想定し、各3台の据置PCを配置。中央のテーブル3台(各6席)には、PCは設置せず、少人数のグループがスタイルや人数に応じて自由に組み替えて利用できるよう、移動と組み合わせが可能なテーブルや椅子を配置。 * フリーゾーン：様々な利用を想定し、一人から複数まで状況と必要に応じて自由にレイアウトを変更できる可動式のテーブルや椅子を配置。全学のコミュニケーションツールとして、大学からの情報が配信される103インチの大型ディスプレイO+PUS(Osaka University + Panasonic Universal Sight)を設置。 * ラウンジゾーン：くつろぎと情報交換の場として、ソファを配置。 同一エリアの一面に定期・不定期に図書館資料展等を開催するギャラリーゾーンを併設。 O B棟2階をラーニング・commonsとして整備すると同時に、B棟3階には、サイバーメディアセンターの情報教育システム端末等PC66台が利用できることと、プロジェクターによる本格的なプレゼンテーションやゼミが可能なグループ学習室(2部屋)が設置された端末ゾーン(座席128席)、B棟4階には、PCの持ち込み禁止で、一人で静かに自学自習ができ、個人ブース20席も設置されたサイレントゾーン(座席230席)を整備し、フロアごとに利用目的に合わせたゾーニングを実施。各階の前費用プレースも、2階オレンジ、3階グリーン、4階ブルーとフロアごとに色分けし、什器もテーマカラーに応じて配備。各階に防犯カメラを設置するとともに、防犯と利用状況確認を兼ねて、ラーニング・commonsの利用者スペースに大型の防犯カメラモニタを設置。
		グローバル・commons： ラーニング・commonsを「学びのスタイルの多様化」「国際化」の方向で機能強化した共同学習空間で、試験期の24時間利用を実現するとともに、多言語・異文化理解のための自主的な学びと交流を支援する場。	GC：「学びのスタイルの多様化」「国際化」に対応し、24時間利用を実現するとともに、多言語・異文化学習を促進し、留学生と日本人学生の学びと交流を支援することを目的として設置。	総合図書館 グローバル・commons	2012年11月	総合図書館グローバル・commons	グループによるディスカッション、プレゼンテーション、授業、講習会等 様々な学習スタイルを想定したラーニング・commonsのデザインをさらに進化させ、24時間利用や多言語・異文化学習等の多様な学習目的にも対応できるようにデザイン。	*設置場所：C棟2階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	545㎡	O プレゼンテーションゾーン、コラボレーションゾーン、フリーゾーン、ワールドニュース閲覧ゾーンの4つに区画し、ラーニング・commonsよりもさらに多様な学習スタイルに対応できるように設計。24時間利用を想定し、据置PCは設置せず、情報コンセントや無線LAN環境のみ整備。 ラーニング・commonsよりも可動式のテーブルを多く配置するとともに、壁面、柱面を活用したホワイトボード、プレゼンテーション設備、ディスカッション用テーブル型タッチディスプレイ、電子黒板等アクティブ・ラーニングを実践するための様々な設備を導入。座席114席、ソファ10席、ベンチ8席。 O プレゼンテーションゾーン：30名前後のプレゼンテーション、授業、講習会等での利用を想定し、天井設置のプロジェクター、スクリーン、マーク設備等を設置。普段は、テーブルを自由に組み合わせて人数に応じたグループ学習が可能。 * コラボレーションゾーン：数名から10名前後のグループによる利用を想定し、ある程度区画の独立性を意図してテーブルや椅子を配置。特に奥の区画は、独立したグループ学習スペースとして、授業や講習会等での利用が可能。 * フリーゾーン：様々な目的に応じて利用を想定し、自由な組み合わせが可能なテーブルや椅子を配置。 * ワールドニュース閲覧ゾーン：多言語・異文化学習、留学生と日本人学生の交流やディスカッションを想定し、世界各国の新聞が閲覧できるタッチディスプレイ(32インチ)、テーブル上の大型ディスプレイに表示したコンテンツを複数人が同時に操作しながらディスカッションができるテーブル型タッチディスプレイ(52インチ)、「和」を想起させる畳を使用したベンチ等を設置。 O 同一フロアの東玄関ホールの一画に、くつろぐことができ、談話も可能なスペースとしてイーストラウンジを整備。無線LAN設備、車椅子対応の洗面台、このスペースのみで利用可能なカップ式飲料自動販売機を設置。24時間開館時は、食事も可とする。 O 24時間開館実現のため、入退館管理システム、防犯カメラ、窓の防犯センサー、24時間開館時に他区画と仕切るための折れ戸等を設置。防犯と利用状況確認を兼ねて、グローバル・commonsの壁外とA棟2階メインカウンターの上部に大型の防犯カメラモニタを設置。
11	広島大学 中央図書館	*ネット資源活用を前提とした、人と情報、人と人が出会う開かれた学習空間 *グループ学習・作業のための共同で学ぶ空間		BIBLA(ヨミ：ピブラ) 中央図書館が先行したため中央図書館は単にBIBLAのまま呼称、各館は以下のとおり 東図書館：BIBLA East 霞図書館：BIBLA Kasumi	*中央東図書館2010年4月[以後、順次展開整備した設備等もあり] *霞図書館：2013年9月30日	BIBLA Study Space(ピブラ)スタディスペース	ネットワークパソコンと図書館資料<特に参考図書>の両用を想定した開かれた書斎空間	*設置場所：中央図書館1階(参考図書コーナー隣) *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	371㎡	*中央図書館は「丹下健三・都市・建築設計研究所」により設計されており、当該エリアは入館者がホールから利用者の脱靴風景を見逃せるという重要なコンセプトを具現する空間であった。この当初のコンセプトを阻害しないように空間改修を依頼した。 *持ち込み荷物の据え置きも確保したうえで、図書もパソコンも利用できるように一人当たりの単位空間を広くとった。
						BIBLA Group Space(ピブラ)グループスペース	協調型学習	*設置場所：中央図書館1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	174㎡	*静養学習空間と協調型学習空間とのオープンな共存については、準備諸段階(国内外)先行事例見学やシンポジウム参加等から、ノイズコントロールが困難との情報を得ていたため、ドア(全面ガラス)で空間を区切った。 *事前に学内の協調型学習空間における授業実践教育と受講生への聞き取り調査を実施した。その結果、空間設計で重要な情報(ホワイトボード可動式がベスト)は可能な限り多くとる、教育面では共に考え・記録をとるといった行為を阻害するため、画像取得可能なホワイトボードは不要など)を得られた。 *なお、情報メディア教育研究センターの端末室としての改修の側面があったため、据え置きパソコン台数をゼロにすることはできなかった。 *数種類に模様替え可能な什器構成(数グループの協調型学習空間<基本>)、講演会、講習会)
						BIBLA Work Space(ピブラ)ワークスペース	総合案内カウンター+利用に付随するコピー・印刷の作業エリア	*設置場所：中央図書館1階 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	288㎡	*パソコン利用とレファレンスサービスのワンストップサービスを目指す総合案内カウンターを設置した。 *総合案内カウンターの後ろはゆっくり対応できるコーナーを(図書館による人的支援サービスを空間的アピールにもなる)設置した。 *将来、ライティング支援空間にも転用できるよう、コピー・印刷エリアはゆったり什器をレイアウトした。
						ライティングセンター	(2013年11月1日から文章指導開始) 本格設計はこれからの展開			

設 問 項 目	大学名／調査館	1. 貴館が考える「ラーニング・commons(LC)」の目標やポリシー、考え方等	2. 貴館が整備するLCの設置目的又はミッション等	3. 貴館が整備するLCの名称(愛称、仮称等)	4. 貴館が整備したLCの開設年月	8. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：名称	9. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：どのような学習が行われることを想定してデザインしたか	10. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて： * 設置場所： * 図書館内外の別： * 入館ゲート内外の別：	11. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：面積	12. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：想定した学習を実現するために施設(建築・設備)の面で工夫点、設計上の特徴
12	九州大学中央図書館	*九州大学附属図書館では、「学問的雰囲気と活気に満ちた学習図書館の実現」をミッションに掲げており、ラーニング・commonsはこのミッションに沿ったものである。 *また、2017年度に開館予定の中央図書館では、「主体的な学びを創出する図書館」をコンセプトの一つに掲げ、基本機能に「目的や学習形態、人数に応じた選択できる多様な学習スペースを提供」「主体的な学びをうみだす学習場のマネジメント」等を挙げている。	1. に掲げたミッションに基づく設置であり、具体的には、下記のとおり設置(経費要求)時の目的：学部学生の学習の場・授業との連携の場・イベント開催の場現在の方向性：能動的学修を促進する場。知の交流の場	きゅうと commons	2009年10月		グループ学習、ホワイトボードやスクリーンを使用した学習・プレゼン等、グループでPCを使いながらの学習や作業	*設置場所：中央図書館2F *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	383㎡	*参考図書室のレファレンスブックを書庫へ移動し、書架を撤去したスペース(参考図書室の約半分)を改修
	九州大学 嘸鳴天空広場		* (設置目的) 講義室の近くに学習スペースと図書館機能を設ける * (コンセプト) 学生が集い語り学び合い、互いに切磋琢磨しながら成長する場所	嘸鳴天空広場Q- Commons	2009年4月		*初年次学生のグループ学習や一人での学習、グループでPCを使いながらの学習や作業、図書を使いながらの予習・復習	*設置場所：(伊都地区) 全学*教育講義棟4F *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約500㎡	*ラーニング：コミュニケーションゾーンと学習ゾーン等を什器と動線によりゾーン分け *什器の選定と配置：ゾーン毎に最適な什器の選定 *コミュニケーションゾーンで動かしやすく活発な議論を促す色・デザインを考慮 *学習ゾーン固定式の机イス、一人分のスペースを図書室より少し狭くして席数確保 *リラックスゾーン→デザイン的におもしろい什器を意図的に配置
13	国際基督教大学	当時(2000年当時)、海外で広がっていたインフォメーション・commonsの考え方を手本に、印刷媒体資料と電子媒体資料の統合的利用を主目標とした。	電子資料利用についてCD-ROMからインターネットへと広がった時期だった。電子資料の利用環境の充実及び電子媒体蔵書との接続(Cd.自動化書庫を同一時期に設置)を目的として、122台のPCを導入した。	学生間には建物名称である「オスマー図書館」という呼称が通用している。	2000年9月	スタディエリア	*個人学習	*設置場所：オスマー図書館 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約1000㎡	*壁を設けず広大なフロアとし、拡張性を担保
						グループラーニングエリア	*グループ学習	*設置場所：オスマー図書館 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約300㎡	*壁を設けず広大なフロアとし、拡張性を担保
						ライティングサポートデスク	*ライティングサポートの活用	*設置場所：オスマー図書館 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約150㎡	*壁を設けず広大なフロアとし、拡張性を担保
						ブレイクエリア(自動販売機設置(1台))	*休憩、飲み物	*設置場所：オスマー図書館 *図書館内外の別：内 *入館ゲート内外の別：内	約150㎡	*軽い囲い(本当は厳格にゾーニングしたかったが、予算の関係で軽い囲いに留めた)
14	同志社大学	*「知的欲望開発空間」を全体コンセプトとしている。 *これは、「正課科目」の授業外学習時間の増加と質向上を、アクティブ・ラーニングを通じて推進することを目的としている。このため、課外活動は想定しない立場である。 *教育支援機構が運営を担当するのはその理由からである。 *課外に焦点をあてるのであれば、学生支援センター：旧学生部が管轄となる。しかし、インターシッパ、ボランティアを含むサービス・ラーニングの展開など、正課と課外の境がボーダレスになってくる潮流があり、今後調整と見極めが必要になる。 *正課(に近い活動)と認識する基本は、評価の「アセスメント指標」がそのプログラムに備わっているかどうかにあると考えている。	(利用要領より) ※2014年1月に下記の要領の改訂あり。それまでは暫定版。 (趣旨) 第1条 同志社大学ラーニング・commons(以下「ラーニング・commons」という)は同志社大学学生の学習活動を支援するための施設であり、利用にあたっては、この要領の定めるところによる。 (利用目的) 第2条 ラーニング・commonsの利用目的は、本条各号に定めるもので、授業外での学生の主体的学習活動、およびそれを支援する活動とする。 (1) 個人またはグループによる学習 (2) 学生を対象としたフォーラム、シンポジウム、パネルディスカッション、講演会等 (3) 学生を対象とした学習スキル向上のためのセミナー、ワークショップ等 (4) その他、教育支援機構長(以下「機構長」という)が認めた学習支援活動	コンセプトが利用者に浸透してから、公募する予定。大学執行部案として「DOLCE」であったが、全体のコンセプトが得られず保留状態。 学内にまずは「ラーニング・commons」の考え方を浸透させるために、そのまま使っている。	2013年4月	プレゼンテーションコート	多用途のフリースペース。講演会、シンポジウム、セミナー、大規模なポスターセッション、ワークショップ等。	*設置場所：クリエイティブ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約330㎡	*フレキシブルな空間 移動しやすしい軽量の椅子・机、ロールスクリーンによるスペースの仕切り(4分割まで)。 *複数の天井カメラ(複数のアングルから撮影・投影)。 *複数の天井吊りプロジェクター(6台) ショーメッドによる作業を想定したホワイトボード兼スクリーン(6か所)。 *TEDxタイプのプレゼンテーションを見越した移動式数層(舞台)。 *天井スラブから、スマート・インフィル(スティールの方格フレーム)を直吊りすることで、今後の機器類設置、パネル等の吊りを容易にしている。
						グループワークエリア	グループワーク、小規模のセミナー、小規模のポスターセッション。パフォーマンス(お茶、お花など)。	*設置場所：クリエイティブ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約120㎡	*量型の台座を設置。用途に合わせて組み合わせが可能な、形の違いを用意。 *電子黒板の配置。スクリーンとプロジェクターも配備。 *スマート・インフィル(スティールの方格フレーム)を床から立てて設置することで、今後の機器類設置、パネル等の吊りを容易にしている。
						インフォダイナー	リラックスしたミーティング。カジュアルな学習。いわゆるワイ・ギャ	*設置場所：クリエイティブ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約210㎡	*スクリーンにもなる全面壁面ホワイトボード、短焦点プロジェクター、またはプラズマディスプレイを用意したボックス席。
						グローバルピレッジ	多文化交流スペース。留学生と国内学生の交流場所、ワールド・カフェ、トーク・カフェイベントの中心地。	*設置場所：クリエイティブ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約285㎡	*海外放送の受信設備とハイカウンターテーブル(通りがかりの学生が合流して立ったまま、座っているひとに合流できる高さ：Apple Storeの机と同じ高さ)。 *大型テーブルで交流を促す(地図、計画表等大型の資料の協同閲覧を想定)。 *Go! Global(留学相談)コーナーを設置。
						アカデミックサポートエリア	個人だけでなくグループでのチュータリングも入る。	*設置場所：リサーチ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約190㎡	*サポートスタッフ(含む教員)が常駐する。教員・スタッフのオフィスのもなっている。 *スマート・インフィル(スティールの方格フレーム)を床から立てて設置することで、さまざまな学習の成果物の見本を展示でき、また今後の機器類設置、パネル等の吊りを容易にしている。
						プリントステーション	アウトプットを支援する。特に、どのような印刷物の形態をとれば、効果的な成果報告ができるかのコンサルテーションが受けられること、著作権を遵守するための現場教育に力をいれるようテナント業者に確認している。	*設置場所：リサーチ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約40㎡	*大判のポスター出力まで可能な機器、製本機等を設置。委託された印刷業者が運営。 *安価に大判プリントが可能
						マルチメディアラウンジ	画像制作、動画編集などのアウトプット支援。PBL科目で制作される、老人ホーム慰問用のドラマ制作等、今後のデジタル・ストーリー・テリングでの成果報告を可能にしている。 他の建物内にあったものを、より目立つラーニング・commonsの一角に移設。	*設置場所：リサーチ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約85㎡	*画像編集などが可能なソフトウェアをインストールしたPCが利用可能。 *専属スタッフが常駐してサポートする。 *機器のセキュリティを考慮して、このエリアはガラスで囲った空間となっている(上部は空いている)。
						ワークショップルーム	アカデミックスキルを実践的に学べる。スキルアップ中心のセミナー、ワークショップの開催場所。	*設置場所：リサーチ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約130㎡(2スペース合計)	*簡易スタジオとしても使えるクローズドタイプと開放的なオープンタイプのワークショップルーム。 *移動が楽にできるタブレット付きチェアを用意。
						グループスタディルーム	グループ学習・研究。	*設置場所：リサーチ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約300㎡	*7つのルームをストリングカーテンで、2部屋続き、3部屋続き、2部屋続き(合計7部屋・区切り全面ホワイトボードをいれている)とフレキシブルにスペースを仕切ることができる。 *予約が必要なスペースとフリーなスペースとがある。
						インフォメーションカウンター	ラーニング・commonsの施設案内と利用案内。	*設置場所：クリエイティブ・commons *図書館内外の別：外 *入館ゲート内外の別：内	約35㎡	*PCロッカーを設置。 *貸出用PC80台。 *返却はメールでアラート。

設 問 項 目	大学名/調査館	13. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：設備(什器類)	14. LCの整備に当たって：予算の出処	15. LCの整備に当たって：どのようにしてスペースを設けたか。	16. 準備及び計画について：LCの基本的なコンセプト、デザインの検討体制、検討期間、検討内容等	17. 準備及び計画について：計画段階での問題点	18. 準備及び計画について：計画段階での問題点への対応	19. LCにおける人的支援：スタッフ	20. LCにおける人的支援：スタッフ毎の主なるサービス内容	21. LCにおける人的支援：サービス時間	22. LCにおける人的支援：サービス展開上のコンセプト・ビジョン	23. LCにおける人的支援：人件費の出処	24. LCにおける人的支援：学生スタッフ(名称・愛称)：(採用人数)	25. LCにおける人的支援：学生スタッフ(採用方法)
1	北海道大学本館	<ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他の貸出用備品 (ヘッドホン) ■その他整備している設備 (無線LAN) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■その他整備している設備 (ベンチ、ピクチャーレール) 	附属図書館再生事業経費?	<ul style="list-style-type: none"> ■什器配置換え ■改修 ■増築 	<p><検討体制> *本館リニューアル計画WG(部課長、利用支援課補佐、本館閲覧係長、会計係長、各課各1名)</p> <p><検討期間> *2002年から</p> <p><検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■コンテンツ</p>	<p>*図書館全体のスペースの問題(面積を増やさずに改修したため。書架収容力や閲覧スペースの拡充に苦慮)</p>	<p>*自動化書庫や集密書架の導入によりスペースを確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■その他(英語学習アドバイザーの設置は一部予定している。) 				<ul style="list-style-type: none"> *グローバル人材育成経費(予定) 		
2	東北大学本館	<ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■その他整備している設備 (ヘッドホン) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■グループで使うことを想定した据置PC ■その他整備している設備 (ヘッドホン) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■貸出用PC(タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード(可動パーテーションを兼ねる) ■その他の貸出用備品(貸出用プロジェクター、投影スクリーン、マイクセット) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■貸出用PC(タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■その他の貸出用備品(貸出用プロジェクター、投影スクリーン、マイクセット) 	学内予算(総長裁量経費)	<ul style="list-style-type: none"> ■什器配置換え ■改修 	<p><検討体制> *2009年7月に本館スペース検討WG設置(本館から11名) *2010年1月に本館スペース検討WG配下にLC検討チームを設置(全館から7名)</p> <p><検討期間> *2009年7月から2010年3月まで</p> <p><検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■その他(職員の配置場所の見直し等)</p>			<ul style="list-style-type: none"> ■大学院生 ■その他(外国人留学生) 	<ul style="list-style-type: none"> ■日本語ライティング指導：大学院生 ■利用案内、学習相談：外国人留学生 	<ul style="list-style-type: none"> *大学院生 週2日 16時～18時 週1日 12時～14時 *外国人留学生 週5日 13時～17時 	<ul style="list-style-type: none"> *留学生コンシェルジュ：外国人留学生の支援を主たる目的とする。その支援を同じ外国人留学生が利用相談に応じることに、文化的障壁を少しでも解消する。 *TA：授業の履修者の支援を主たる目的とする。授業時間内のみならず、時間外であってもサポート可能なように、図書館内相談デスクを設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> *留学生：留学生施策充実経費 *大学院生：TA経費 	<ul style="list-style-type: none"> *留学生コンシェルジュ：教員推薦十面接 *TA：図書館延長開館スタッフや全学教育TA候補者登録者十面接 	
3	筑波大学中央図書館本館	<ul style="list-style-type: none"> ■貸出用PC(タブレット・ポータブルも含む)(iPad) ■ホワイトボード ■その他整備している設備(ラーニングアドバイザー用ノートPC) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■その他整備している設備(A4プリンタ3台(内カラー1台)) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーテーション ■その他整備している設備(可動式の机および椅子) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■ホワイトボード ■その他整備している設備(展示用書架) 	耐震改修予算	<ul style="list-style-type: none"> ■什器配置換え 	<p><検討体制> *ラーニング・スクエア検討ワーキンググループ(7名)</p> <p><検討期間> *平成22年6月から16カ月間の検討を経て開設した。</p> <p><検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■コンテンツ</p>	<p>*大学院生による大学生に対する人的支援(ピアサポート)の運用ノウハウがなかった。</p>	<p>*2011年5月から7月にかけて、大学院生のモニタースタッフによる学生サポートデスクの運用を試行した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■大学院生 	<ul style="list-style-type: none"> ■日本語ライティング指導：大学院生 ■情報収集、入手支援：大学院生 ■利用案内、学習相談：大学院生 ■PC利用ガイダンス：大学院生 	<ul style="list-style-type: none"> *週5日 14時～19時(授業期間) 	<ul style="list-style-type: none"> *大学院生による学習のピアサポート 	<ul style="list-style-type: none"> *図書館管理費(賃金支弁経費) 	<ul style="list-style-type: none"> ラーニング・アドバイザー：7名 	<ul style="list-style-type: none"> *本学大学院生を対象として公募
4	千葉大学アカデミックリンク	<ul style="list-style-type: none"> ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他整備している設備(マイク設備) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■貸出用PC(タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■その他の貸出用備品(貸出用プロジェクター) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC(タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■その他の貸出用備品(貸出用プロジェクター) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ■貸出用PC(タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■その他の貸出用備品(貸出用プロジェクター) 	学内予算・概算予算	<ul style="list-style-type: none"> ■改修 ■増築 	<p><検討体制> *アカデミック・リンク・センター教員、附属図書館職員</p> <p><検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■コンテンツ ■運営組織 ■学内関連組織との連携</p>	<p>*資金不足</p>	<p>*什器等の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■教員 ■図書館職員 ■大学院生 ■学部学生 	<ul style="list-style-type: none"> ■日本語ライティング指導：大学院生 ■情報収集、入手支援：大学院生 ■利用案内、学習相談：大学院生 ■PC利用ガイダンス：教員 	<ul style="list-style-type: none"> *週5日 12時50分～19時20分 	<ul style="list-style-type: none"> *開放的で自由な空間で学修支援を行うことにより、相談しやすい雰囲気を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> *運営費交付金特別経費(プロジェクト分) 	<ul style="list-style-type: none"> *ALSA(Academic link student assistant) - LS(Learning Support)：16名 *ALSA - TT(Technical Support)：17名 *ALSA - GS(General Support)：11名 	<ul style="list-style-type: none"> *公募

設問項目	大学名/調査館	13. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：設備(什器類)	14. LCの整備に当たって：予算の出処	15. LCの整備に当たって：どのようにしてスペースを設けたか。	16. 準備及び計画について：LCの基本的なコンセプト、デザインの検討体制、検討期間、検討内容等	17. 準備及び計画について：計画段階での問題点	18. 準備及び計画について：計画段階での問題点への対応	19. LCにおける人的支援：スタッフ	20. LCにおける人的支援：スタッフ毎の主なるサービス内容	21. LCにおける人的支援：サービス時間	22. LCにおける人的支援：サービス展開上のコンセプト・ビジョン	23. LCにおける人的支援：人件費の出処	24. LCにおける人的支援：学生スタッフ(名称・愛称)：(採用人数)	25. LCにおける人的支援：学生スタッフ(採用方法)
5	新潟大学 中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC(タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■その他の貸出用備品 (貸出用プロジェクター、貸出用投影スクリーン) 	概算予算(耐震改修予算)	■増築	<p><検討体制></p> <ul style="list-style-type: none"> *メンバー：増改修WGラーニング・コモンズメンバー 6名 <検討期間> *1年6ヶ月 <p><検討体制></p> <ul style="list-style-type: none"> *メンバー：FL-SALCメンバー5名 <検討期間> *1年 <p><検討内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ■施設 ■設備 	*学習スタイルに適した施設やエリアの工夫、備品の選択	*他大学の見学等	<ul style="list-style-type: none"> ■大学院生 ■学部学生 ■その他(FL-SALCアシスタント、FL-SALC英語学習アドバイザー) 	<ul style="list-style-type: none"> ■利用案内、学習相談：大学院生、学部学生 ■その他(英語学習相談)：FL-SALC英語学習アドバイザー、FL-SALC利用案内：FL-SALCアシスタント 	<ul style="list-style-type: none"> *大学院生、学部学生 週5日 13時～16時 *FL-SALC英語学習アドバイザー：週5日 9時～18時 *FL-SALCアシスタント：週5日 9時～16時 	<ul style="list-style-type: none"> *学生スタッフ支援経費(大学院生、学部学生) *グローバル人材育成推進事業経費(FL-SALCアシスタント、FL-SALC英語学習アドバイザー) 	*ラーニングアドバイザー：24名	*図書館学生サポーターを中心としたグループに担当を依頼した。	
6	お茶の水女子大学	<ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■貸出用PC(タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーティション ■その他の貸出用備品 (マイク、荷物入れ用サイドワゴン、びさかけ(窓のみ)) 	学内予算・特別経費 *学長裁量経費：壁撤去などの施設改修 *現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)「科学的思考力と表現力で築く「私の履歴書」」：キャリアカフェ什器購入	■什器配置換え ■改修	<p><検討体制></p> <p>LC：図書館1階の半分を占めていた研究センターの移転計画を受け、跡地をどのように利用するかチーム内で検討を行った。結果、元々図書館内に存在していたPCコーナーの機能を拡充し、単なるPC利用場所ではない学習コミュニケーションスペースを提供することとし、総合情報処理センター(当時)とともに詳細を検討した。</p> <p><検討期間></p> <p>約4ヶ月</p> <p><検討体制></p> <p>ラウンジ：IT環境の整備だけではなく、学生がリラックスできる空間を提供するため、「明るく見通しのよい図書館」をキーワードに、チーム内にラウンジリニューアルプロジェクトを立ち上げ、リニューアルを実施した。</p> <p><検討期間></p> <p>約6ヶ月</p> <p><検討体制></p> <p>キャリアカフェ：「将来の自分像について、コピーを片手に自由に話すスペース」の設置場所を探していた現代GPを誘致し、現代GPの担当者、利用者サービス担当者を中心に検討を行った。</p> <p><検討期間></p> <p>約5か月</p> <p><検討内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■コンテンツ ■運営組織 ■学内関連組織との連携 		■大学院生	<ul style="list-style-type: none"> ■PC利用ガイダンス：大学院生 ■その他(教務システム、履修登録、e-learningシステム等入力支援)：大学院生 	<ul style="list-style-type: none"> 土日祝日以外の開館期間中常駐。 *授業期間中：週5日 9時～21時 *休業期間中：週5日 9時～17時 	*2014年度に向けて、学修の支援に関するサポートを増やす予定。	*特別経費「学生主体の新しい学生課の創成-21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育(2013年度で終了)」	*ラーニング・アドバイザー(LA)：21名(固定14、臨時7)	*研究室やサークル、学科等の先輩後輩からの紹介	
7	静岡大学 静岡本館	<ul style="list-style-type: none"> ■貸出用PC(タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーティション ■その他の貸出用備品 (インタラクティブ・ユニット(ホワイトボードへの書き込みをPCに取込)) ■その他整備している設備 (無線LANアクセスポイント、有線LAN・電源の床コンセントによるサービス) 	学内予算	■改修	<p><検討体制></p> <p>*館内ワーキンググループメンバーを中心に、図書館委員、学生モニターの意見なども取り入れて検討を行った。</p> <p><検討期間></p> <p>*2008年10月から検討開始。</p> <p>*オープンな意見交換会も2度開催した。</p> <p><検討内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ■施設 ■設備 		■大学院生 ■その他(特任教員、学術研究員)	<ul style="list-style-type: none"> ■利用案内、学習相談：学習相談：学術研究員 ■その他(数学の学習支援)：大学院生/英語の学習支援)：特任教員 	*大学教育センターの事業として、2013年度より一定期間のみ実施。 *2013年度前期は、7月(試験期前)の水木の午後に実施。	*全学キャリアデザイン教育 *FD部門運営経費				
8	名古屋大学 中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC 6台 ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他の貸出用備品 (プロジェクター、スクリーン) 	概算要求(2008年度、2009年度に予算措置)	■什器配置換え	<p><検討体制></p> <p>*ラーニング・コモンズ構築WG (施設整備グループ4名、運用サービスグループ4名、人的支援担当2名、情報機器担当2名、教員アドバイザー2名)</p> <p><検討内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■コンテンツ ■学内関連組織との連携 	*工期等の制約により、具体的なサービスを意識したコンセプトの検討が十分できないまま施設の計画を進めざるを得なかった。	*2期目の工事期間でできる範囲の修正を行った。また、完成後も施設、設備面での改善を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■日本語ライティング指導：大学院生 ■英語ライティング指導：大学院生 ■情報収集、入手支援：大学院生 ■利用案内、学習相談：大学院生 ■PC利用ガイダンス：大学院生 ■その他(内容：(大学院生)ライティングに関するミニ講座、英会話ワークショップの開催) 	<ul style="list-style-type: none"> *週5日 15時～19時 	*コンセプトとして定めたものはないが、留学生向けサービスを行うため、英語、中国語での対応が可能なスタッフを雇用している。	*図書館運営費(人件費)	*サポートスタッフ：9名 *公募、面接による選考		

設問項目	大学名/調査館	13. 貴館のLCを構成するスペース・エリアについて：設備(什器類)	14. LCの整備に当たって：予算の出処	15. LCの整備に当たって：どのようにしてスペースを設けたか。	16. 準備及び計画について：LCの基本的なコンセプト、デザインの検討体制、検討期間、検討内容等	17. 準備及び計画について：計画段階での問題点	18. 準備及び計画について：計画段階での問題点への対応	19. LCにおける人的支援：スタッフ	20. LCにおける人的支援：スタッフ毎の主なるサービス内容	21. LCにおける人的支援：サービス時間	22. LCにおける人的支援：サービス展開上のコンセプト・ビジョン	23. LCにおける人的支援：人員費の出処	24. LCにおける人的支援：学生スタッフ(名称・愛称)：(採用人数)	25. LCにおける人的支援：学生スタッフ(採用方法)
9	金沢大学中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ■貸出用PC (タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他整備している設備 (展示スペース、カフェ PressDisplay(海外オンライン新聞)閲覧端末、CNN/BS視聴テレビ) 	学内補正予算	■改修	<p><検討期間> *2009年6月末～7月上旬 *学長から図書館における学習支援事業計画を求められ、中央図書館ラーニング・commons整備案を提案。</p> <p><検討期間> *2009年8月～9月 *予算化された場合を想定し、業者からの提案、他大学の事例を参考に、整備内容の検討を進め、「ブックラウンジ」、「コラボ*スタジオ」等の基本プラン案を作成。</p> <p><検討期間> *2009年9月 *学内補正予算として、予算化される。工事内容等、施設との打ち合わせを開始。</p> <p><検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■運営組織</p>	*遠音、臭気対策	*厚ガラスによる閲覧エリアとの分離	■教員	<ul style="list-style-type: none"> ■日本語ライティング指導 ■情報収集、入手支援 ■利用案内、学習相談 	*週2日 16時～18時		*文科科学省 2012年度「大学間連携共同教育推進事業」採択事業「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」		
10	大阪大学総合図書館	<ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■グループで使うことを想定した据置PC ■貸出用PC (タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■その他の貸出用備品 (プロジェクター) ■その他整備している設備 (大学生協のプリペイド式カード利用によるプリンタ、103インチ大型ディスプレイ、防犯カメラ、防犯カメラモニター) 	施設整備費補助金(耐震改修予算)及び学内予算	■改修	<p><検討体制> *附属図書館施設委員会(メンバー：館長、各副館長、事務部長、各課長)で検討。</p> <p><検討期間> *2007年6月～2008年10月</p> <p><検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■運営組織</p>		<ul style="list-style-type: none"> ■図書館職員 ■その他(大学院生のティーチング・アシスタント(以下「TA」)) 	<ul style="list-style-type: none"> ■利用案内、学習相談 ■TA、図書館職員 ■その他(TA講習会の企画・実施、学習用図書の見直し：TA) 	*TA 週5日 12時～19時の間で、週25時間	*学生の主体的な「学び」の場であるラーニング・commonsには、学習に関する人的サポートが不可欠の要素であり、それには、学生にとってより身近な存在であるとともに、学習に関する助言や指導により本人自身の教育者としてのトレーニングや情報活用能力向上にもつながる大学院生のTAが相応しいという考えのもとに、LC開設当初より同一エリア内に利用支援カウンターを設けて大学院生TAを配置し、隣接する参考図書カウンターとの図書館職員と連携して、学習支援を実施している。	*附属図書館ティーチング・アシスタント(図書館TA)：6名	*図書館による学内公募		
		<ul style="list-style-type: none"> ■貸出用PC (タブレット・ポータブルも含む) ■ホワイトボード ■プロジェクター ■プロジェクター用投影スクリーン ■可動パーティション ■その他の貸出用備品 (プロジェクタ、シート型電子黒板、防犯カメラ(24時間監視時)) ■その他整備している設備 (マイク設備、テーブル型タッチディスプレイ、新聞閲覧用タッチディスプレイ、電子黒板) 	大学教育研究特別整備費及び学内予算	■改修	<p><検討体制> 附属図書館施設委員会で検討。</p> <p><検討期間> 2011年7月～2012年9月</p> <p><検討内容> ■施設 ■設備 ■コンテンツ ■運営組織 ■学内関連組織との連携</p>									
11	広島大学中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> ■ひとり用の据置PC ■その他整備している設備 (荷物置き使用可能なキヤスター付PCユニット) 	補正予算(法人本部事業計画)	■改修	<p><検討体制> *実施段階は約半年であったためサービスを所掌する普及グループ[課に相当]を中心とした臨時ワーキンググループで検討した。</p> <p><検討期間> *コンセプト確定とソーニング決定までは館内ワーキンググループ等で、2年に渡り検討した。</p> <p>*デザインは数社に提案依頼し、一番評価が高かったメーカー案を参考に、入札で他社も参入可能な案を策定した。</p> <p><検討内容> ■施設 ■設備 ■人的支援 ■運営組織 ■学内関連組織との連携</p>	*予算配分時期の関係で、実施段階の検討時間と予算不足。	*初期稼働以降も理事職費等獲得の努力で初期に用意できなかった部分の改修等を実施した(サイン、グループスペース占有利用時のトークフリー代替空間改修、端末増設等)	<ul style="list-style-type: none"> ■図書館職員 ■大学院生 ■その他(PC利用情報メディア教育研究センタースタッフ) 	<ul style="list-style-type: none"> ■日本語ライティング指導 ■大学院生 ■情報収集、入手支援 ■図書館職員 ■利用案内、学習相談 ■図書館職員 ■PC利用ガイダンス ■情報メディア教育研究センタースタッフ 	*レファレンスサービス 週5日 9時～17時 *パソコン利用支援 週5日 9時15分～17時 *ライティング支援				

設 問 項 目	大学名／調査 館	26. LCにおける人的 支援：学生スタッフ (業務管理・運用体制)	27. LCにおける人的 支援：学生スタッフ (トレーニング方法・時 間等)	28. LCにおけるコンテンツ提供：利用できる学習用コンテン ツ	29. LCにおけるサービス：教 員・事務・学生等との連携	30. LCにお けるサービス ：その他、 LCでの特徴 的な機能につ いて	31. LCの運営 について：LC の運営体制 担当者・担当係 (人数)	32. LCの運営について：運用開始により新た に発生した業務	33. LCの運営について：当 初計画と違った点	34. LCの運営について：課題	35. LCの運営について： 対処	37. LCの自己評 価について： LCの設備面(設 備)に対する自己 評価 (期待どおりだ った点)
1	北海道大学 本館				■事務(事務組織)との連携 (内容→人事課による職員研修をリ テラシールームで開催) ■その他の学内組織との連携 (内容→アカデミック・サポートセ ンターとのスキルアップセミナーを オープンエリア、リテラシールームで 開催)		*特に決まってい ない。 *利用支援課情報 リテラシー担当 *調査支援担当 *閲覧担当 がそれぞれ行っ ている。	*プロジェクター等の貸出	*当初は、オープンエリアには人的支援 はかからない方針であり、参考図書のフ ロアの一部がオープンエリアだった。 *しかし、それでは面積が狭いこと、 そのための支援が難しいこと、サイレ ントエリアとのゾーン分けがうまくい かなかったことから、新棟オープンから1年 半後に、参考図書の書架をすべて撤去 し、2階フロア全体をオープンエリアとし た。 *その後、オープンエリアで「スキル アップセミナー」を開いたり、テーマ展 示を実施するなど、少しずつオープンな 学習空間のイメージを学生に浸透させ るよう努力している。 *当初の計画になかったことから、学生 スタッフなどの予算はない。 *職員によるレファレンス支援等の場 として検討中である。	*人的支援がない。 *学術的コミュニケーション の場として活動できていな い。	*職員によるレファレンス支 援、学生による学習アドバイ ザーの設置を検討中。 *学生スタッフについては、予 算の確保と、図書館によるTA の雇用体制の確立などの課題が ある。 *メディアコートでいくつかイ ベントや展示を開催している が、少し滞りから懸念しているの で、オープンエリアも学術的コ ミュニケーションやディスカッ ションの場として授業で活用し てもらおう、FD研修などで プロモーションを行っている。	*オープンエリアの 拡張後は、学生の利 用方法に変化が出て きた。 *ホワイトボードを 使った自由なディス カッションが行われ るようになった。
2	東北大学 本館	*留学生コンシェルジュ ：身分は事務補佐員。2013年 度は、5～7、10～2月実施予 定。レファレンスデスク近辺 にて1名体制、外国人留学生や 日本人学生向けにLCを含む図 書館全体の利用方法や資料の 探し方などの案内を中心に行 う。その他レポート作成のセ ミナーも担当している。 *TA：2013年度は、 10月～2月実施予定。レファ レンスデスク近辺にて1名体 制。当該科目の履修生や学部 学生向けにレポート作成の要 領や方法などの指導を中心 に行う。 *業務管理は、両方とも参考 調査係が行う。	*留学生コンシェル ジュ：担当係(参 考調査係)から、業務で必 要となるデータベース等 による情報探索および図 書館の利用方法、資料の 配置等一通りの仕事内容 等の説明を約5時間、テ スクでの利用者対応実習 を約15時間。合計20時 間程度。 *TA：担当係(参 考調査係)から、授業の 流れ、授業資料の説明を 1コマ辺り1時間、テ スクでの利用者対応実習を 約1時間。	■特徴的なデジタルコンテンツ ①(コンテンツ名:「『レポートカ』アップのための情報探索入門」2013 コンテンツ内容:レポート作成に掛かるテキスト) http://tulibrary.tohoku.ac.jp/modules/supp/index.php?cat_id=3 ②(コンテンツ名:東北大学生のための情報探索の基礎知識:基礎編 2010 コンテンツ内容:情報探索用テキスト:基礎編、社会科学編、自然科学編ほか) http://tulibrary.tohoku.ac.jp/modules/supp/index.php?content_id=26 ③(コンテンツ名:Guide to Academic Information Search for Students of Tohoku University / Natural Science 2010 コンテンツ内容:レポート作成に掛かるテキスト) http://tulibrary.tohoku.ac.jp/modules/supp/index.php?content_id=29 ④(コンテンツ名:ブックログ 東北大学附属図書館「『レポートカ』アップのための情報 探索入門」 コンテンツ内容:レポート・論文作成に掛かる図書を紹介) http://booklog.jp/users/tohokulib ■シラバス本体 ■教員著作本・教員推薦図書類 ■常設の企画展示(図書等)(企画名:学生選書企画) ■その他(英語多読法テキスト、英語TOEIC・TOEFLの対策本、震災ライブラリー、視 聴覚資料、学内刊行物、英語多読法テキストレビュー、留学生用図書レビュー)	■教員(教員組織)との連携 (内容→教員による英語多読法のテ キストの選書・レベル分け等) ■事務(事務組織)との連携 (内容→広報課、公開講座「リベラ ルアーツサロン」の開催、人事課、教 職員向け「英語多読法研修」の開催) ■学生(学生組織)との連携 (内容→イベント「サークル展 示」、「Evernote講習会」の開催) ■その他の学内組織との連携 (内容→グローバル人材育成PJから 英語TOEIC・TOEFLの対策本の受贈) ■授業との連携 (内容→授業・基礎ゼミの実施、英 語多読法授業履修者によるテキストレ ビュー作成と掲示、レポートカアップ 授業TAが授業時間外支援)		*短時間PCワー クエリア&長時間 PCワークエリア ：参考調査係 (3名) *グループボッ クスエリア&フレキ シブルワークエリ ア：閲覧第一 係(9名)	*エリア内のイベント予約 受付 *座席確保 *学生スタッフ(ピアサ ポート)の指導・管理など	*LC計画時には、施設・設備計画が 主で、運用により発生する業務等の 運営計画は、特に検討してなかつ た。	*LCについては、当初の想 定外の利用(長時間(9:00- 17:00)の占有や土日のイ ベント開催、学習ではないサー クル打合せでの利用など)が あった。 *学生スタッフ(留学生コン シェルジュ)については、現 在は留学生施設充実経費に毎 年申請し、採択された経費に よって採用しているため、採 用が不安定。経費の募集自体 が7月頃にあることもあり、 図書館内予算を立替なければ 、4月からの採用が難しい。 *外国人留学生と留学を目指 す日本人学生双方のサービス を展開するための方策を模索 中である。	*運用内規や申請書レベルで、 制限(利用内容や利用時間等) を設けた。 *ポスターやホームページで の案内、留学生や教員へのチ ラシの配付などにより、利用者 への周知を行っている。	*複数個別学習 (友人と一緒に座る が別々に学習)、グ ループ学習(グル ープで討議や一体学 習)として利用され ている。 *フレキシブル ワークエリアでは、 学生主催イベント も増えている。 *PC席では、全席 にヘッドホンを用意 したが、良く利用さ れている。
3	筑波大学 中央図書館 本館	*非常勤職員として採用	*ライティング支援に関 する外部講師によるセミ ナー(年1回2時間半)、 ラーニング・アドバイ ザー同士のミーティング 及び勉強会(月1回2時間)	■特徴的なデジタルコンテンツ (コンテンツ名:学習支援の本棚 コンテンツ内容:ラーニング・アドバイ ザーによる、学習に役立つ図書の紹介) ■シラバス本体 ■シラバス掲載図書 ■その他(「アカデミックスキルズ図書」の本棚(大学生として学習・研究を 行う上で必要なスキルについての図書を学生サポートデスク付近に設置))	■教員(教員組織)との連携 (内容→ライティング支援連続セミ ナー) ■学生(学生組織)との連携 (内容→プレゼンひろば(旧 MMI=Monday Morning Institute, 大 学院生等による「社プレゼン」))		*学習支援推進 ワーキング・グ ループ(8名)	*ラーニング・アドバイ ザーの勤務時間管理やL/C関 連イベントの企画運営等	*ワーキンググループ体制で の運営から定常業務体制への 移行	*ワーキンググループによる移 行案の検討	*既存の環境と調和 し、境界を意識する ことなく誰もが出入 りできるというメ リットを生かし、従 来の通路にホワイト ボード・展示用書架 等を配置してプレ ゼンテーションエ リアとして活用し ている。	
4	千葉大学 アカデミッ クリンク	*ALSA-LSIは「参加する 学習」プロジェクト *ALSA-TIはオンライ ン・クラスルームプロジェ クト *ALSA-GSIは「新しい 図書館員」プロジェクトが 業務管理を行っている。	*学修支援は学期ごとに 2回の振り返り会を行 い、対応事例を共有し全 体の課題を明らかにして 改善活動を意識化、明確 化している。	■シラバス本体 ■教員著作本・教員推薦図書類 ■パスファインダー ■新着図書 ■常設の企画展示(図書等) ■その他(パスファインダー掲載図書)	■教員(教員組織)との連携 (内容→1210あかりんアワーでの 「教員が研究の楽しさを語る」登壇、 オフィスアワー@アカデミック・リン ク) ■事務(事務組織)との連携 (内容→1210あかりんアワーでの 「外国に暮らす」フックトークの 登壇) ■授業との連携 (内容→授業資料ナビゲータ)	見せる書架 (ブックツ リー)	*アカデミック・ リンク・センター 教員と図書館職員 がチームとなり、 プロジェクトを担 当している。 *7つのプロジェ クトに図書系常勤 職員(14名)が 関わっている。	*Student Assistantの教 育、勤務管理など	*利用者の状況を見て、開設時間を 午後にする限まで対応すること にした。	*静かな環境を求め声もあ る。	*完全に静かな空間の確保を行 う改修工事を予定している。	*特に利用指導はし ていないが、学生た ちは可動式の机、椅 子、ホワイトボード を自由に使って学修 している。

設 問 項 目	大学名／調査 館	26. LCにおける人的 支援：学生スタッフ (業務管理・運用体制)	27. LCにおける人的 支援：学生スタッフ (トレーニング方法・時 間等)	28. LCにおけるコンテンツ提供：利用できる学習用コンテ ンツ	29. LCにおけるサービス：教 員・事務・学生等との連携	30. LCにお けるサービス ：その他、 LCでの特徴 的な機能につ いて	31. LCの運営 について：LC の運営体制 担当者・担当係 (人数)	32. LCの運営について：運用開始により新た に発生した業務	33. LCの運営について：当 初計画と違った点	34. LCの運営について ：課題	35. LCの運営について： 課題	37. LCの自己評 価について： LCの設備面(設 備)に対する自己 評価 (期待どおりだ った点)
5	新潟大学 中央図書館	*図書館学生サポーターを中心としたグループが勤務シフトを組んで業務を行い、図書館で作成した出勤表に記入押印してもらっている。	*情報調査係による情報検索や電子ジャーナル利用方法についてのレクチャーを受講してもらっている。 (1時間程度)	■特徴的なデジタルコンテンツ： (コンテンツ名：ALC NetAcademy2 コンテンツ内容：英語学習教材) ■シラバス本体 ■その他(外国語学習用図書、視聴覚資料)	■教員(教員組織)との連携 (内容→ 大学教育機能開発センターと全学FD開催) *教育支援センター外国語部門とFL-SALCを連携して外国語の自律学習を支援 *図書館職員が図書館を使う授業について、場所や機器準備など相談にあたる「授業コンシェルジュ」 ■事務(事務組織)との連携 (内容→ FL-SALC運用に関わる人的支援(教務課)) *グローバル人材育成事業に係わる経費の配分(国際課) *館内展示、館内見学企画(広報室) ■学生(学生組織)との連携 (内容→ 図書館学生サポーターを中心とした学生・大学院生がラーニングアドバイザー、書架整理業務を担当) *留学生サポーターによる英語および初級外国語(フランス語、ドイツ語等)のチャットをおよそ月40回実施 *図書館学生サポーターと図書館が協働してイベントを実施 *館内紹介、図書館利用ガイダンス用(予定)DVDの作成 ■授業との連携 (内容→ 情報リテラシー教育、図書館を利用した授業、パスファインダー作成)		*情報サービス係 *情報調査係 (11名)	*施設予約の管理対応(学生の利用予約、授業等での予約) *FL-SALCとの連携(企画の運用サポート、環境改善)	*学外の方も気軽に立ち寄ることのできるラウンジの機能を備えたインフォメーションラウンジ(およそ1,100㎡)が飲食可能かつ無線LANの設置などLC同様の環境を備えていることから、第2のLC的な使われ方をしている。 *可動式の机、椅子の配置について職員が考えていた以上に自由にくみかえてエリアを利用している。	*授業、学習等によく使われているので、今後もより広く利用されるように利用の幅、裾野を広げる。		*学習の様々な利用目的に合わせた部屋やスペースは図書館の意図したとおり使用されている。
6	お茶の水 女子大学	*情報基盤センターが対応	*新人が経験者と一緒に1勤務(4時間)を行い、一通りの流れをつかむ。 *ごく簡単なマニュアルがあるとのこと。	■特徴的なデジタルコンテンツ (コンテンツ内容：語学学習、統計ソフト、画像処理ソフト) ■シラバス本体(web経由) ■常設の企画展示(図書等)(企画名：数ヶ月ごとに展示替えをしている) ■貴重図書、歴史資料類(資料名：和算資料、外邦図、大学資料など。 (Web経由)) ■大学沿革史料(Web経由) ■その他(PCマニュアル類、キャリアカフェ文庫(学生が選んだくつろぎ用図書))	■教員(教員組織)との連携 (内容→ ピアノコンサート) ■学生(学生組織)との連携 (内容→ 学園祭でのイベントや学生ボランティア団体との連携) ■その他の学内組織との連携 (内容→ 学生・キャリア支援センターが主催する就活、キャリアサポートの場として活用されている) ■授業との連携 (内容→ 教員の依頼を受け、授業やゼミ単位で図書館オーダーマイド講習会を実施)	学生の自主的な 成果発表の場	*キャリアカフェ や物品の予約があ った場合、情報サ ービス係の常勤2 名が対応している。	*キャリアカフェ予約受付 *物品貸出(パーティション、プロジェクター、スクリーン、マイク)		*現在は、LAの人柄やスキルに依存するところが大きく、それぞれのスキルが引き継がれていない。体験談や特殊な技術などは、研修などですべてをまかなうのは困難。対応マニュアルを明文化しているわけではないため、実質、アドバイザー本人の裁量によるところが大きい。 *授業の課題の質問をどこまで受け付けるべきか。課題に関する質問には答えず担当教員に直接問い合わせるようという簡単な方針はあるものの、受けた質問が課題の答えそのものなのかどうかの判断がとて難しい。	*勤務時に分からないことやトラブルが発生した場合、ITセンターに電話連絡。 *日々の業務連絡としてmoodleを利用し、作業報告をLA、ITセンターで情報共有。	*約70台のPCが、よく利用されていること。 *最近は自分のPCやノートPC貸出ロッカーのものを持ち込んで利用する人も多くなったこと。(ノート型の需要が高いのか?) *キャリアカフェのテーブルの利用も多いこと。
7	静岡大学 静岡本館				■その他の学内組織との連携 (内容→ 大学教育センターによる学習サポート事業)		*利用サービス係 (5名)	*施設設備の貸出・予約	*予想以上によく利用されたため、机の追加を行った。	*授業期間には座席や貸出PC(12台)が不足する。		*ファミレス風ブースの人気の高い。
8	名古屋大学 中央図書館	*参考調査掛が担当	*1人あたり12~17時間。 業務説明、館内施設・サービス説明、資料探索関連の図書館開催講習会の受講、高等教育研究センター講師によるライティング関連講習会の受講、過去の対応事例をもとにした練習問題の自習、図書館利用法に関するDVD視聴、毎勤務時に送信する業務報告メールに対する個別指導など	■シラバス本体 ■パスファインダー ■新着図書 ■常設の企画展示(図書等)(企画名：ミニ展示 内容は2か月程で入れ替え) ■その他(ライティング関連図書)	■その他の学内組織との連携 (内容→ 学生相談総合センター)	*ライティング サポートエリアに アカデミック ライティング指 導用の専用プ ースを設置して いる。	*サポートスタッ プ担当：参考 調査掛(4名) *施設*設備担当 ：閲覧掛(9 名)	*PC管理 *サポートスタッフの雇用 管理、業務管理、トレー ニング	*当初はTA配置を希望したが、大学の規定により雇用できなかった。そのため、サポートスタッフを事務補佐員として雇用している。	*ラーニング・commonsを設置するにあたって、担当職員の追加があったわけではないので、管理、運営を担当する職員に業務負荷がかかっている。 *ラーニング・commonsにおける学習支援を企画できる知識、スキルを持った職員の不在。	*情報サービス課内の関係掛業務の見直し。 *学習支援に比重を置いた組織改編の検討。 *金沢大学、静岡大学との学習支援促進のための三大学連携事業での職員の育成。	*ほぼ想定した学習が行われている。(ライティングサポートエリアを除く)

設 問 項 目	大学名／調査 館	26. LCにおける人的 支援：学生スタッフ (業務管理・運用体制)	27. LCにおける人的 支援：学生スタッフ (トレーニング方法・時 間等)	28. LCにおけるコンテンツ提供：利用できる学習用コンテ ンツ	29. LCにおけるサービス：教 員・事務・学生等との連携	30. LCにお けるサービス ：その他、 LCでの特徴 的な機能につ いて	31. LCの運 営について：LC の運営体制 担当者・担当係 (人数)	32. LCの運 営について：運 用開始により新 たに発生した業務	33. LCの運 営について：当 初計画と違った点	34. LCの運 営について ：課題	35. LCの運 営について ：課題	37. LCの自己評 価について： LCの設備面(設 備)に対する自己 評価 (期待どおりだ った点)
9	金沢大学 中央図書館			■シラバス本体 ■シラバス掲載図書 ■新着図書	■教員(教員組織)との連携 (内容→ ヒブリオバトルの開催)		*中央図書館係 (6名)	*管理、予約、使い方の指 導		*オープンスペースのエリア 予約対応が煩雑	*開館前の準備を心がけている。 。	*可動機、ホワイト ボード
10	大阪大学 総合図書館	*採用手続き：庶務係、 業務管理：参考調査担当 業	*採用時に、オリエン テーション(業務内容や 電子リソースの使用メ ソッド等の簡単な説明)を実施。 1～2時間程度。 *参考調査担当職員による オン・ザ・ジョブ トレーニングを随時実施。 *また、メーリング・リス ト等を活用した情報共有により レベルアップを図っている。	■シラバス掲載図書 ■バスファインダー ■その他(キャリア支援図書)	■教員(教員組織)との連携 (内容→ 「レポートの書き方講座」 等を教員、TAとの協働により開催) ■学生(学生組織)との連携 (内容→ 論文検索講習会をTAとの協 働により開催) ■授業との連携 (内容→ 夏季集中講義「アカデミッ ク・スキルズ」の1コマを図書館職員 が担当し、文献収集方法等を講義)	*学生グループ との共催による イベントの開催 *教育研究プロ グラム説明会や 学生による各種 イベントの場と して提供	*情報ナビゲート 班 サービス企画 担当 (1名) *情報ナビゲート 班 参考調査担当 (2名)	*教員、TAとの協働による ライティング指導講習会等 の企画・実施 *TA関連業務 *授業、講習会、イベント 等の利用申請受付 *貸出用品の貸出・返却 処理	*共通教育担当部署や国際交 流担当部署等学内関係組織と の組織的な連携の実現 *学習支援担当職員の養成	*現在LC・GCでの学習支援に 協力いただいている教員等と、 組織的連携による学習支援のあ り方等について意見交換を行っ た上で、学内関係組織と連携に 向けた協議を進めていきたいと 考える。 *若手職員を中心としたWGに よって学習支援活動を展開する ことにより、今後の活動を担 う職員の養成を図る必要がある。	*組み合わせ可能な 可動式テーブルや卓 上型及び両面型ホ ワイトボードが学生に 好評。	
11	広島大学 中央図書館			■特徴的なデジタルコンテンツ (コンテンツ名：Library PressDisplay コンテンツ内容：世界各国の新聞 データベース)	■その他の学内組織との連携 (内容→ 情報メディア教育研究セン ター パソコン利用) (ライティングセンター ライティ ング支援)		*主にライティ ングセンター 担当 (3名) *施設管理 ： フロアサービス 担当 (4名) + 総務担当主査 (1名)	*グループスペースの授業予約 運用 *グループスペース予約時 (室前と机上、全予約時の代 替空間確保と案内、全予約時 に忘れと学生を追い出すこと になるので確実実施に非常に 神経を使っている) *グループスペースのホワイ トボード清掃(非常に汚れるた め、清掃契約額以上に実施) *ホワイトボードマーカー 交換、カートリッジ補充(予 想をはるかに超えた頻度) *ほとんどの端末が情報メ ディア教育研究センター端 末であり、学生証(ICカード) のタッチ認証のため、従前 にほとんど無かった学生証 の忘れ物が頻発し連絡に かなり時間をとられている。 *時間外開館時の情報メ ディア教育研究センター プリンター用紙補給や故障 対応。				*ゆったり空間で長 時間利用に備えた 椅子を有するスタ ディスペースは 利用者で早く 満ちる。 *グループスペース は使用目的を限定 せず、手続きも 不要なので、非 常に人気がある。

設 問 項 目	大学名／調査 館	26. LCにおける人的 支援：学生スタッフ (業務管理・運用体制)	27. LCにおける人的 支援：学生スタッフ (トレーニング方法・時 間等)	28. LCにおけるコンテンツ提供：利用できる学習用コンテ ンツ	29. LCにおけるサービス：教 員・事務・学生等との連携	30. LCにお けるサービス ：その他、 LCでの特徴 的な機能につ いて	31. LCの運 営について：LC の運営体制 担当者・担当係 人数	32. LCの運営について：運用開始により新た に発生した業務	33. LCの運営について：当 初計画と違った点	34. LCの運営について：課題	35. LCの運営について： 対処	37. LCの自己評 価について： LCの設備面(設 備)に対する自己 評価 (期待どおりだ った点)
12	九州大学 中央図書館				<ul style="list-style-type: none"> ■教員（教員組織）との連携 (内容→ オープンキャンパスでの部局イ ベントの実施) ■事務（事務組織）との連携 (内容→ オープンキャンパスでの国際部等 の各種イベント実施) ■学生（学生組織）との連携 (内容→ 就活支援学生団体による就活相談 ブースの設置、学生団体による研究発表会開 催など) ■授業との連携 (内容→ 特定の教員が授業を実施、PCを使 用したオンデマンド講義の実施、公開授業と してのヒプリオバトル開催等) 		<ul style="list-style-type: none"> *サービス企画係 *資料サービス係 (9名) 	<ul style="list-style-type: none"> *ホワイトボードのマー カー・イレイサーの交換 		<ul style="list-style-type: none"> *参考図書閲覧スペースを 兼ねているため、辞書・事典 類を利用する利用者として は騒々しく感じられるよう である。 		<ul style="list-style-type: none"> *学生は用途に 応じてテーブル・椅子を 自由にアレンジして 使用している。
	九州大学 嘸鳴天空広 場			<ul style="list-style-type: none"> ■シラバス掲載図書 ■教員著作本・教員推薦図書類 ■新書図書 	<ul style="list-style-type: none"> ■授業との連携 (内容→ 21世紀プログラム課程コア セミナーにおける「ヒプリオバ トル」) 		<ul style="list-style-type: none"> *伊都地区図書課 職員全員（13 名） 	<ul style="list-style-type: none"> *「嘸鳴天空広場Q- Commons」に係る全ての 業務 (図書館外に新設されたた め) 		<ul style="list-style-type: none"> *離れた場所にあるため、図 書館の業務と並行して13名の 職員で当番体制を組むのが 厳しい状況である。 		<ul style="list-style-type: none"> *多くの学生に利用 されている。
13	国際基督教 大学	<ul style="list-style-type: none"> *一般的な勤務管理（シフ ト体制はスタッフ内部で調 整） 	<ul style="list-style-type: none"> *チューター：それぞれ 論文は書けるレベルの者 を採用。面接時に論文を 提出させる。 *年2回のスキルアップ ワークショップを実施 (講師：教員や外部のラ イティング専門家) 	<ul style="list-style-type: none"> ■特徴的なデジタルコンテンツ（コンテンツ名：？ コンテンツ内容：？） ■シラバス本体 ■パスファインダー ■その他（ライティング指導上の参考書籍（“論文の書き方”類）、PCマ ニュアル） 	<ul style="list-style-type: none"> ■教員（教員組織）との連携 (内容→ ライティングサポートの企画運 営) ■事務（事務組織）との連携 (内容→ グローバル人材育成担当部署→英 文ライティングをテーマにカリキュラム構築 への反映（「Wコース」(wiswritingの w)）、協力してチューター雇用) ■学生（学生組織）との連携 (内容→ アカデミックプランニングセ ンター（教養課程の支援を担当）が組織したピ アアアドバイザー組織が、図書館のリニューアル に際しての企画立案に意見提供) ■その他の学内組織との連携 (内容→ リテラシー教育に際し、就職支援 担当部署との連携で日経テレコンセミナーを 企画・実施) ■授業との連携 (内容→ 事務との連携を参照のこと) 	<ul style="list-style-type: none"> *ライティング サポートにおい ては、論文執筆 のほか、英文 O/V作成、研究 計画書作成など も支援。 *コピペ問題等 の研究倫理面 の指導も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> *パブリックサー ビスグループ（課 相当）のレファレ ンスサービスセン ター（係相当） (4名) 	<ul style="list-style-type: none"> *PC利用サポート *職員全員が分担して担当 する講習会実施 	<ul style="list-style-type: none"> *当初、電子資料向け、紙媒体資料 向けの2つのレファレンスカウン ターを設けたが、のちに統合。 	<ul style="list-style-type: none"> *飲食対応 	<ul style="list-style-type: none"> *検討中 	<ul style="list-style-type: none"> *思った通りのもの ができた。狙い通り 活用されている。
14	同志社大学	<ul style="list-style-type: none"> *アカデミックインストラ クター等 	<ul style="list-style-type: none"> *アカデミックインストラ クターからの指導 *10回の講習会を受講 (協働学習の方法や学習 科学など学習支援に關す る内容) *TA制度（大学院生の 正果の授業支援）の方 では、まともな講習が ない。こちらは正果の「 授業外学習の支援」に 焦点をあてたプログラム であるが、授業支援に も有用なものである ので、TA研修の声があ がってくるよう に研究科長会議等 で仕掛ける予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ■大学沿革史料（デジタルサイネージで自校教育用画像を流している） 	<ul style="list-style-type: none"> ■事務（事務組織）との連携 (内容→ 図書館、情報支援課、国際 センター、国際課、学生支援セン ター、キャリアセンター) ■学生（学生組織）との連携 (内容→ 行事などの時にボラン ティアを募集することがある) 	<ul style="list-style-type: none"> *壁はゼロであ り、死角がない ように設計して いるため、他人 の学習行為が 「情報」になっ て伝わる機能が いきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援機構学習 支援・教育開発セ ンター 委託業者 		<ul style="list-style-type: none"> *国内学生が引っ込み思案で、留 学生と積極的に交わらないので、仕 掛けのイベント等が必要。 *仕掛ける主体の国際センターが 勉強不足なので、他大学の活動の視 察に行かせる予定。 	<ul style="list-style-type: none"> *ありすぎて書けない。 	<ul style="list-style-type: none"> *ありすぎて書けない。 	<ul style="list-style-type: none"> *壁がなく、広い オープンスペース にしたことが、予 想以上に学習の コミュニケーション 形成に効果があ ることを確認した。 *書架の並び空間の 一部にこの種の スペースが存在し ても、コミュニ ティ形成は難 しいであろう。

設 問 項 目	大学名/調査 館	38. LCの自己評価について : LCの設備面(設備)に対する自己評価(期待とは違った点)	39. LCの自己評価について : LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待どおりだった点)	40. LCの自己評価について : LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待とは違った点)	41. LCの自己評価について : LC利用数と自己評価等	42. LCの自己評価について : 人的支援の利用数と自己評価等	43. LCの自己評価について : PC利用数と自己評価等	44. LCの自己評価について : コンテンツの利用数と自己評価等	45. LCの自己評価 : LCIに必要と思われる設備・支援等	57. その他 LC整備や活動での成果、ノウハウ、苦勞、記載できなかった事項、今後の展開予定(計画を含む)等		
1	北海道大学 本館	<p>*静かな学習環境を好む学生も多いこと。サイレントエリアのゾーニングについては何回かの試行錯誤があった。</p> <p>*現状では、2階がオープンエリア(ディスカッション可、PC可、資料なし)、3階閲覧室が資料あり、PC可、私語不可、4.5階閲覧室はPC不可、私語不可となっており、ようやく学生からの騒音に関する苦情も減り、このゾーニングで落ち着いてきたようである。</p> <p>*メディアコートには、ベンチを設置しているが、床面が暖房つきのカーペットであるため、床に直接座ってベンチを机としてグループ学習する学生が多く見受けられるようになった。</p> <p>飲食も可能であるため、よりリラックスした学習空間となった。この使い方は想定外であった。</p>		<p>*当初、予定していなかった床がフリーアクセスになっていない場所までLCのエリアを拡大したので、床から配線できなかった場所が出てしまった。</p> <p>*メディアコートは、大きな吹き抜け空間であるため、照明は照明不要の明るさが保たれた。一方、冬は寒く、雪が積もると結露が落ちてきたので、一時利用停止とした。</p>					<p>*学内の学生用端末設置場所としては、北図書館と本館が突出した高利用実績がある。(今回の再生事業において本館では10台程度→71台に増加)</p>		<p>*大学ごとにLCのあり方は特徴や違いがあって当然と考えている。</p> <p>*北大の場合は、初年次学生を対象とし理系学部が多いエリアにある北図書館と、高学年・院生が多く文系学部の多いエリアにある本館とでは、おのずと役割分担がある。それぞれのニーズにあった学習空間やサポートが必要であり、そのためには各図書館・室のミッションを明確にし、他部署との連携、学生との協働による意見を取り入れながら、全学の図書館を構築していく必要があると考えている。</p>	<p>*2013年度補正予算で北図書館を増築予定(現在入札が成立せず工事は未定)。</p> <p>*北図書館は初年次学生を主たる利用者とし、地理的にも全学教育部、国際本部とも近いため、学務部、国際本部等とも連携してアクティブラーニングフロアやグローバル人材育成フロアを計画している。</p>
2	東北大学 本館	<p>*カーペット色でエリアや動線を分けることを期待したが、カーペット色が地味なためか、目立っていない。</p> <p>*ノートPC利用者用に、OA床に電源を用意したが、可動式テーブル・椅子があるエリアでは、電源ケーブルが結構邪魔。</p>		<p>*入館者自体の増加はないが、LC自体の利用は増加した。特にPCエリアは満席状態であり、イベント数も増えた。</p> <p>*アクティブラーニングエリア(フレキシブルワークエリア、グループボックスエリア)も、当初は一人での閲覧利用が多かったが、現在は想定通りのグループ利用として活用されている。特に試験期間などに利用が増える傾向にある。</p> <p>*キャンパス内の学生の数(約6,000名)に対して、LCの席数(174席)が少ないことは今後の検討課題である。</p>	<p>*当初の「学術情報資源の利用」や「論文作成の指導」、「IT技術」に関するサポートを行うという面からすれば、支援体制の達成度は7割程度と評価している。</p> <p>*人件費もTA経費や留学生施設充実経費を獲得して採用している。</p> <p>*多言語で日本人学生・外国人留学生問わず対応できている面は、学内のにも評価されている。</p> <p>*利用数「留学生コンシェルジュ」については、2013年11月からの6ヶ月で約400件対応。平均で3.3件/1日、今後どのように広めるかは今後の検討課題である。</p>		<p>*LCにデスクトップPCを75台用意しているが、11:00-15:00は満席状態である。</p> <p>*開館時間14時間のうち、全台とも9時間程度は利用されているのではないかと評価している。</p> <p>*PC台数の不足、デスクトップPCはスペース占有や有線ケーブル等の配線課題もあり、無線LANによる貸出ノートPC等での対応は今後の検討課題である。</p>	<p>*LCで提供しているコンテンツは、館内利用を想定したものが多く、コンテンツの1つ、英語多読法テキストは、授業との連携もあり、館内閲覧はもとより貸出冊数も多いと評価している。(2012年度の開講数:19回、授業履修者:500名余り。貸出人数:4,722名、貸出冊数:11,375冊)</p> <p>*学習用コンテンツの整備はもとより、学習用コンテンツの利用を促進するナビゲーションコンテンツの充実も今後の検討課題である。</p>	<p>*文科省の方針や大学のビジョンに沿った「グローバル化」をキーワードとした設備・支援が必要と考えている。</p> <p>*海外留学に行く人へのための学習支援(語学・文化等)エリア</p> <p>*外国人留学生向けの学習支援(語学・文化等)エリア</p> <p>*海外文化に興味がある人へのエリアと関係コンテンツ</p> <p>*人的サポートの更なる充実:海外留学経験者や外国人留学生による人的サポート、ICT系分野、ライティング系のサポート</p> <p>*留学生課、国際交流課、グローバルラーニングセンター、国際交流センター、高等教育開発推進センター等との連携</p> <p>*PCの増加。(デスクトップにはスペース的制約があり、貸出用PCで対応)</p> <p>*学生が机・椅子等を自由に利用しながらディスカッションできるようなラウンジ的なスペースの増加。</p>	<p>*文科省の答申や大学のビジョンに沿って、「グローバル化」をキーワードとしたLCの新たな展開を、学内の留学生課や国際交流センター、グローバルラーニングセンター等と検討中。</p> <p>*2014年度中の整備に向けて現在改修工事中。(約750㎡)</p>		
3	筑波大学 中央図書館 本館	<p>*耐震改修工事と並行しての設置となったため、既存の書架や什器等の配置換えの制約上、従来のフロア配置が混合された状況であり、フロア全面の活用ができていない状況。</p>	<p>*LC設置以前に耐震改修工事整備した、透明ガラス張りやオープンスペースのグループ学習スペースをコラボエリアとして整備したこと、他者の学びが見え、学びのモチベーションが高まる空間が提供できている。</p>	<p>*LCとして独立した空間ではないため、「会話もできる場」としての活用が不十分で、LCとは別に設置した「スタディ・スペース」(静かな学習空間)との差別化が図れていない。</p>		<p>*2012年度、学生サポートデスク質問件数 488件</p>		<p>*グループ学習と個人学習の中間的な空間(会話可能な賑やかな雰囲気)や学生が自由に構成可能なエリアをもっと増やしたい。</p> <p>*学習サポートデスクの認知度向上のためには、学生の自発的な利用を待つだけではなく、授業等との連携により強制的な利用を促進させる工夫も必要(とくに初年次学生)。</p> <p>*LCでの中核的な学習支援活動を維持するために継続的な教員との連携が可能な体制・制度作りも必要。</p>	<p>*ラーニング・アドバイザーの活動については、図書館が想定した人的支援の他に、ラーニング・アドバイザー自身の発案による展示・学園祭企画(「Learning Adviser×Booklogの本棚」(書評で扱った圖書の展示および利用者からの書評募集)「本の樹海」(図書館内のオリエンタリング)等)を行っている。</p>			
4	千葉大学 アカデミック クリニック	<p>*利用者が多く、席が足りなくなった。</p>	<p>*吹き抜けを持つ開放的な空間で人が集まりやすい。</p>	<p>*階段の位置が分かりにくい。</p>	<p>*2012年度附属図書館入館者数 516,825人。</p> <p>*改修工事以前の2010年度と比較しても入館者数は増加している。</p>	<p>*2012年度、学修支援の相談人数は277人。</p> <p>*1人当たりの相談対応時間が長い。振り返り会を行うことで、利用者の動向などを活動に反映できている。</p>	<p>*据え置き型なので、利用状況の統計などはとっていない。</p> <p>*広く利用されていて、増やしてほしいという要望が出ている。</p>	<p>*現在の活発な利用状況を見て、改修工事の際に、ラーニング commons のエリアの増強を行う予定。</p>	<p>*週2回、プレゼンテーションスペースで「1210あかりんアワー」というショートセミナーを行っている。</p> <p>*教員が研究の楽しさを語る、ブックトーク、外国に暮らすなどをテーマに、2012年度は66回行い、延べ1600人が参加した。</p> <p>*アカデミック・リンク・セミナーとして、教職員や図書館員向けのアカデミック・リンクに関する研修を行っている。2012年度は6回行い、363人が参加した。</p>			

設問項目	大学名／調査館	38. LCの自己評価について：LCの設備面(設備)に対する自己評価(期待とは違った点)	39. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待どおりだった点)	40. LCの自己評価について：LCの建築面(施設)に対する自己評価(期待とは違った点)	41. LCの自己評価について：LC利用数と自己評価等	42. LCの自己評価について：人的支援の利用数と自己評価等	43. LCの自己評価について：PC利用数と自己評価等	44. LCの自己評価について：コンテンツの利用数と自己評価等	45. LCの自己評価：LCに必要なと思われる設備・支援等	57. その他 LC整備や活動での成果、ノウハウ、苦勞、記載できなかった事項、今後の展開予定(計画を含む)等
5	新潟大学 中央図書館		*明るく開放的な学習空間は、利用者増加の一因となっている。			*およそ1,200人。	*LC 41台 *ICT講義室 61台 *貸出ノートPC 30台	*教育組織との連携協力による、学生の能動的学習を支援するしくみ。 *学生による学習支援サポーターの資質を向上させるしくみや雇用の継続。 *学生が自由に学習空間を作れるように、可動式の机や椅子の増設やノートパソコンや無線LAN環境といった施設面での充実。	*教員がラーニング・コモンズを利用した授業を行う際に、教員からの相談に応じて場所や使い方の提案を行う業務「授業コンシェルジュ」を行っている。 *来年度から授業連携の一つとして、教員と協力して教養科目の1年生向け授業のパスファインダーを作成し、図書館コンテンツを活用した自律学習の促進を図る予定。 *文部科学省の「大学図書館における先進的な取り組みの実践例」としてWeb上で公開予定である。 *能動的な学習支援に先進的に取り組む各大学からの報告をふまえ、今後の大学図書館の役割について考察することを目的として新潟大学附属図書館セミナー「ラーニング・コモンズの明日をめぐって」を企画し、ラーニングを支援する新図書館モデル構想を開催(2013.11.19)予定。 *学生と館長の懇談会「館長と語ろう」などを開催し、利用者のニーズを調査している。	
6	お茶の水女子大学	*グループ学習のときなど、少し騒がしいことがある。イベントの主催者が、他の利用者への影響を気に掛けることがある。(壁が無いことの弊害がもしれない)ただし、現在のところ苦情は受けていない。 *附属高校生も利用が多いのだが、お菓子を食べたりする生徒が見受けられる。 *居心地の良い椅子に長時間眠っている人がいる。 *席と席が近いので、荷物を隣の席に置く人が多い点。(サイドワゴンを置いているが利用が少ない。)	*壁を取り払ったため、見通しがよく、セキュリティ上安心なこと。 *外から利用している姿がよく見え、混雑状況が分かる上、集客効果もあること。	*壁がないため、時として、話し声が気になる場合があること。	*時期による。 *授業期間中：9割程度 *授業期間外：2割程度	*学習サポートにまで至っていない。	*最近の平日14~16時の利用者数：平均100人。 *PCは66台あるため、この時間帯に1台あたり1.5人使用したことになる。 *よく使われており、今後も維持拡大を図りたい。	*人的サポートは必須である。現状は大学院生によるパソコン回りの指導が中心であるが、しかるべきスキルを研修により身に付け、ライティング指導なども行っていきたい。 *グループ学習室があれば、もっと多様な利用者のニーズにこたえられるであろう。 *図書館員による、図書館で利用できるソールの講習会、教員との連携授業などができる教室があれば考える。	*これまでの活動の成果等は、LISAブログ内でも報告しています。 http://ochadailisa.blog32.fc2.com/ *今後の展開については、 新図書館構想ワーキンググループ(メンバーに教員を含む) で検討中です。	
7	静岡大学 静岡本館				*入室者数の統計をとっていないが、予想以上に使われている。		*2012年度は4,220件(1回3時間までで、利用延長を含まない件数。) *1日平均12.5件。用意している貸出PCの台数は12台。 *授業期間はしばしば返却待ちになり、よく利用されていると評価している。			
8	名古屋大学 中央図書館	*グループラーニングエリアでの可動式机があまり活用されなかった。 *ホワイトボードがあまり利用されなかった。 *ライティングサポートエリアは意図に反し、ライティングによる利用があまりされていない。	*ゲートの正面にグループ学習スペースを設けたことで、ラーニング・コモンズが認知され利用されるようになってきている。		*H23 着席率 47.5% (15:30時点平均) *H24 着席率 47.7% (15:30時点平均) *評価：試験期など最も利用が多い時には、着席率が70%を超える。非常に良く利用されている。	*H23 573件 *H24 692件 *評価：サポート件数は着実に増加し、内容もレポート作成などの割合が少しずつ増加している。	*H23 稼働率 (15:30時点平均 全館) 71.2% ログイン数 96,736人 (全館) *H24 稼働率 (15:30時点平均 全館) 68% ログイン数 85,419人 (全館) *評価：設置PCの利用は少し減っているが、無線LANのアクセス数は全館的に増加している。持ち込みPCの利用が増加しているものと思われる。	*人的サポートは待っているだけではなく、講習会、ワークショップなどの企画を積極的に進めていくことも必要だと思う。 *ITサポートは、学内関連組織(情報基盤センター)と連携して行えるといい。	*アクティブラーニング推進の場として、ラーニング・コモンズが期待されているが、 図書館だけでは実現は困難ではないか。 *情報リテラシーを含めて、教員との連携、授業との連携が鍵となると思われる。	

設 問 項 目	大学名／調査 館	38. LCの自己評価について：LCの 設備面(設備)に対する自己評価 (期待とは違った点)	39. LCの自己評 価について： LCの建築面(施 設)に対する自己 評価 (期待どおりだっ た点)	40. LCの自己評価に ついて：LCの建築 面(施設)に対する自 己評価 (期待とは違った点)	41. LCの自己評価につ いて：LC利用数と自己 評価等	42. LCの自己評価につ いて：人的支援の利用数 と自己評価等	43. LCの自己評価に ついて：PC利 用数と自己評価等	44. LCの自己評価に ついて：コンテ ンツの利用数と自己評価等	45. LCの自己評価：LCに必 要と思われる設備・支援等	57. その他 LC整備や活動での成果、ノウハウ、苦勞、記載できなかった事項、今後の展 開予定(計画を含む)等
12	九州大学 中央図書館	*プロジェクトの貸出をしているが、利用さ れていない。	*LCとそれ以外 (参考図書室外)の エリアのゾーニン グ。 *静謐なスペースが 騒がしくなることは なく、学生は上手く 使い分けている。	* (期待していたわけ はないが、)元々書架が 並んでいたところを改修 したため、風通しが悪 く、空気がかもって書 い。	*授業期/試験期は常にぎ わっており、ほぼ席が埋ま っている印象。 *設置当初は、ホワイトボ ードを衝立にして一人で勉強し ている学生が多かったが、少 しずつグループでの利用が浸 透し、2年目ころからは、活 発に議論している姿が多く見 られ、想定通り有効活用され ている。		*PCを使いながらグ ループで議論している ケースが多い。 *会話OKかつ1台に 椅子2席設置している ことで、そのような使 い方を促していると思 われる。		*観察によると、グループ学習の際に 持ち込んでいる資料は、授業でよく使 われる定番のテキスト・参考書が多い ようである。 *授業関連図書はLCに置くのは有効 かもしれない。	*設置当初は、職員がミーティングで使うなど使い方の見本を示すことで、学生たちも次第に声を出し て使うようになった。 *LCを利用して学生にヒアリングすると、他のグループが活発に議論をしている様子が刺激にな る、という意見が多い。互いに刺激を受け合う場になっているようである。 *「就活支援学生団体による就活相談ブース」(就職が決まった先輩が、これから就活を始める後輩の 相談にのるもの)は、主催の学生が、自分が就活を始める際にLCで他の就活生に声をかけて就活のきっ かけをつかんだという経験から、ぜひこの場所でもやりたい、という申し入れにより実現した。「つま なく」場としての機能も果たしていると考えている。 *LCが能動的学修の場として有効活用されるためには、学生自身が、このスペースは自分たちが主体的 に使ってよい場であることを感じられることが重要であると考えている。そのためには、居心地の良さやゆ やかな運用なども重要な要素であると考えている。
	九州大学 嘸鳴天空広 場	*清掃のコストがかかる(利用が多いため汚 れやすい)	*講義棟の中心・最 上階にあり、便利で 快適な空間となっ ている。	*空調集中管理のため、 温度設定等の微調整がで きない。	*2012年度入室者： 153,394人(開室173日) *1日2,000名を超える時も あり、かなり利用されている が、座席数に限りがあるため サービス対象(約5,000名) をカバーできていない。	*2012年度レファレンス件 数：1,061件 *図書館サービス以外の質問 が大半を占め、1名体制で可 能な範囲で対応している。				
13	国際基督教 大学		*思った通りのもの ができた。狙い通り 活用されている。	*ガラス張りにしたた め、外気温やPCの熱につ いて、温度制御が難し い。	*据え置きPCの需要の減 少、グループ学習の需要増。 使われ方が変わってきたため リニューアルした。	*ライティングデスクは、当 初周知が十分でなく、100 件/年程度の利用。「何をす るところだろう」との感触。 *新入生オリエンテーショ ンや授業での紹介ののち、利用 増。(現在3年目で、普及し てきた、この印象)。	*据え置きPCの需要 は低下、貸出PCの人 気は高い。	*据え置きPCが常時埋 まっている状態	*大学ごとに必要となる設備は異なる ので定義はないが、どの大学でも必須 と考える設備は下記の通り。 *人的サポート(PC操作指導、情報 検索指導、ライティング指導) *個人学習スペース(静粛な場所) *グループラーニング・スペース(話 ができる場所)	*LCの整備にあたり、学生の声を聴くことと学内周知が重要。リニューアルの際に、一部の学生の意見 は聞いたが学生全員への調査は行わなかった。 *また、学内への周知が盛ったことで、数名の学生からクレームが届いた。(リニューアルの目的 は何か、リニューアルを計画した時点で学生全員に意見を聞くべきであるなど)
14	同志社大学	*電子黒板が一部の教職希望者らを除けば、 十分に使いこなせているとはいえない。	*近隣の寺院の主張 により高さ制限をさ れたため、天井が3 mとなっている。 *スペース側面にガ ラスを多用し、閉塞 感がないよう工夫し たが、もう少し高さ があるほうがよい。 将来は天板を抜いて 4mにしたい。	*一部の照明が意図ど おりのものにできな かった。 *ラーニング・コモン ズの設置反対を主張する声 への配慮もあって、いつ でも教壇にリノベーショ ンできるような設計された ので、照明等が教室仕様 であり、せっかくグル ープでの議論の集中力を高 めるような照明施設(ダ ウンライトの多用)には なっていない。	*通常1日3500~4000程 度 *現状ではMax 5400程度	*受付人数は556人、チーム ティーチングを含め、インス トクター等による対応970 件(12/5現在)	*貸出用PCはほとん ど貸し出されている。		*とりあえずは、いまある設備や人的 支援のいっそうの活用を努めたい。	*学習者の視点で考える。自分が学習者であること。 *ラーニング・コモンズを図書館の視点から論じても、日本の場合はあまり意味がない。運営の一翼を 担う一部署に過ぎないことを早く認識し、従来の「資料の提供」「情報源へのアクセス保証」といった 情報ロジスティクスの視点から脱却し、具体的に情報を使ってどのような学習が可能なのか、という学 習のメカニズムを考慮した情報の取り扱いに意識を注入しないかぎり、図書館から成果はでない。 *ディスカバリーシステムも認知を変えるメカニズムを導く仕掛けとして捉え直したほうがよいのでは ないか。 *整備は構築についてのノウハウやポイントは、あまりすぎて簡略には記述できない。